CONTAX

取扱説明書

RX

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

このたびは、コンタックス RX をお買い上げいただきありがとうございます。

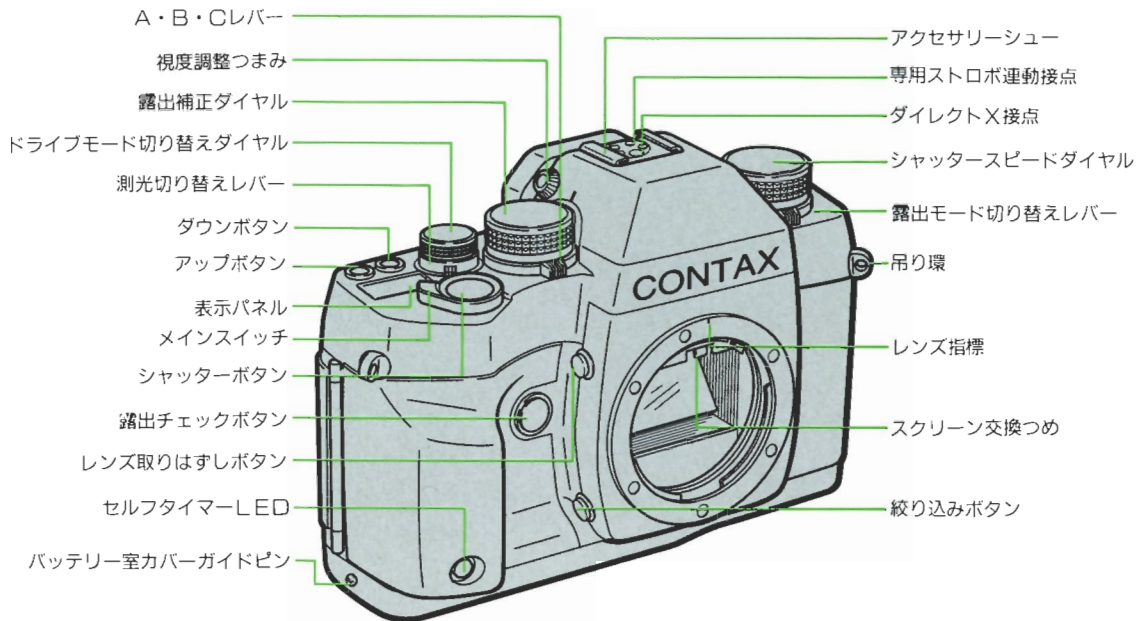
このカメラは、絞り優先オート、シャッター優先オート、プログラムオートなどの露出制御機能をもつ、マルチモード対応のAE一眼レフカメラです。あらたに、ファインダー内にデジタル・フォーカス・インジケーター機能を採用することにより、ピント合わせが容易に行えるようになりました。また、カメラをご自分に合った作動内容にすることができる“カスタム機能”を搭載し、使いやすさを追求しています。さらに、ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボと組み合わせると、カメラでセットしたフィルム感度、絞り値が自動的にストロボにもセットされます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

この取扱説明書の説明内容は、マルチモード対応のプラナーT* 50mmF1.4（MM）付で行っていますが、他のカールツァイス交換レンズを装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。

この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

各部の名称

A・B・Cレバー
視度調整つまみ
露出補正ダイヤル
ドライブモード切り替えダイヤル
測光切り替えレバー
ダウンボタン
アップボタン
表示パネル
メインスイッチ
シャッターボタン
露出チェックボタン
レンズ取りはずしボタン
セルフタイマーLED
バッテリー室カバーガイドピン
アクセサリーシュー
専用ストロボ連動接点
ダイレクトX接点
シャッタースピードダイヤル
露出モード切り替えレバー
吊り環
CONTAX
レンズ指標
スクリーン交換つめ
絞り込みボタン

ストラップの取り付けかた(標準装備)

図にならって取り付けてください。

①

②

③

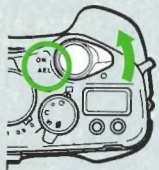
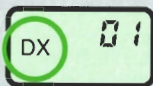
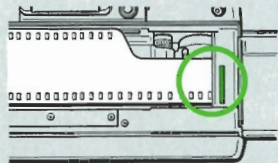
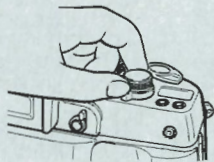
アイカップF-5の取り付け(標準装備)

図のように取り付けてください。

⑪

目次

撮影の早わかり（オート露出撮影）

1 電池を入れます。

2 メインスイッチを“ON”にします。

3 フィルム感度を“DX”にセットします。

4 DXフィルムを入れ、先端をオレンジ色の“–”マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。

5 ドライブモード切り替えダイヤルを“**○**”(グリーンポジション)または“S”“C”にします。

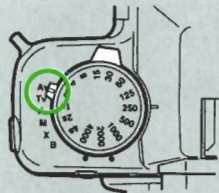
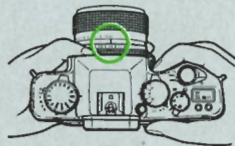
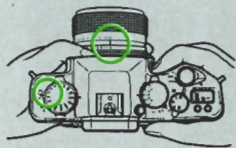
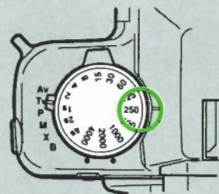
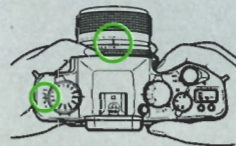
絞り優先オート

（P38）

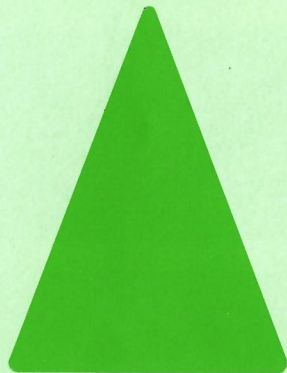
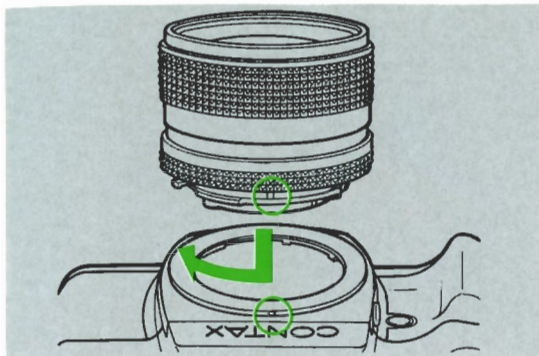
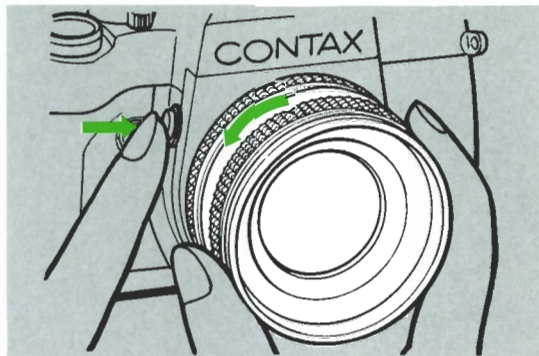
シャッター優先オート

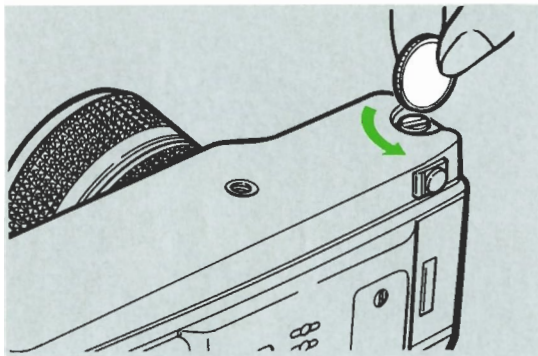
（MMレンズ使用時のみ）（P39）

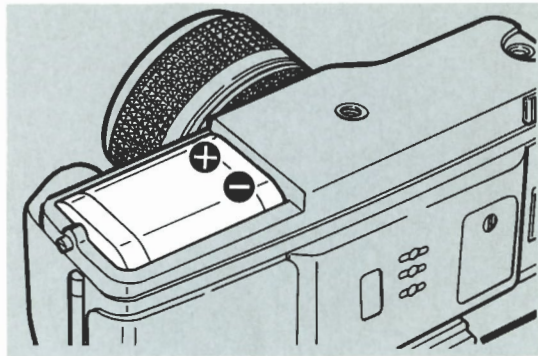
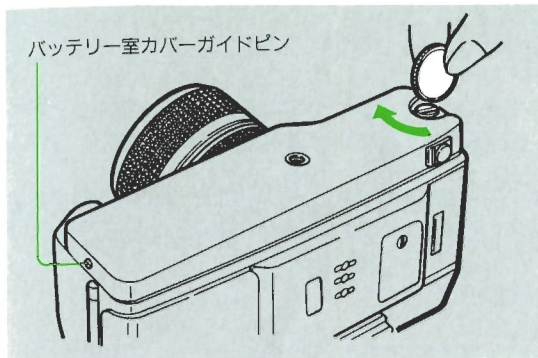
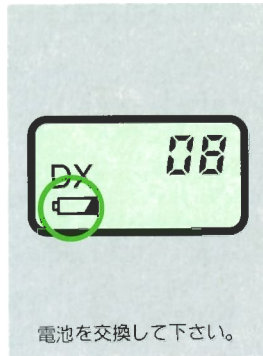
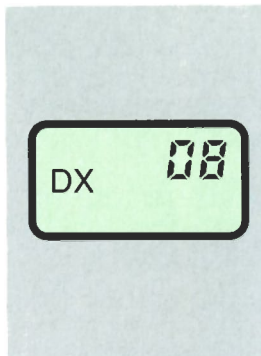
プログラムオート

（MMレンズ使用時のみ）（P41）

6 露出モード切り替えレバーを“Av”にします。

7 絞りをセットします。ピントを合わせて撮影します。

6 露出モード切り替えレバーを“Tv”にし、レンズの絞りを最小絞り（緑色）にセットします。

7 シャッタースピードをセットします。ピントを合わせて撮影します。

6 露出モード切り替えレバーを“P”にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にセットします。

7 ピントを合わせて撮影します。

撮影前の基本操作

レンズの取り付け／取りはずし

〈レンズの取り付け〉
まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次にレンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。
●レンズを取り付けるときは、必ずレンズ側の赤点をカメラ側の赤いレンズ指標に合わせてから、はめ込んでください。赤点を指標に合わせず差し込み、レンズを回しながらカメラのマウントにはめ込むと、レバー等に無理な力が加わりカメラの故障や破損の原因になります。

〈レンズの取りはずし〉
レンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。
●レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
●フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

電池の入れかた

このカメラはフィルム巻上げ、巻戻し、シャッターなど、すべての機構が電池で作動するようになっています。カメラは電池が入っていないと作動しません。

1 カメラ底部のバッテリー室カバーの固定ネジを硬貨などを利用してゆるめ、カバーをはずします。

2 6Vリチウム電池(2CR5)をバッテリー室内の+−表示に従って正しく入れてください。

3 カメラのバッテリー室カバーガイドピンにバッテリー室カバーの取り付け穴を合わせ、カバーを元通りにかぶせます。そして固定ねじを矢印の方向へ止まるまで回して固定してください。

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させ、表示パネルに"▭"(バッテリー警告マーク)が表示されなければ、電池の電圧は正常です。

〈電池の交換時期〉

表示パネルに“▭”マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチをOFFにしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

●“▭”マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの“▭”マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。このとき最後の写真は正常に写らないことがあります。

●電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、“▭”マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに“▭”マークが表示された場合、一度メインスイッチをOFFにし再度ONにしてください。この操作を行って“▭”マークが消えたらそのままお使いいただけます。

〈電池取扱い上の注意〉

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。

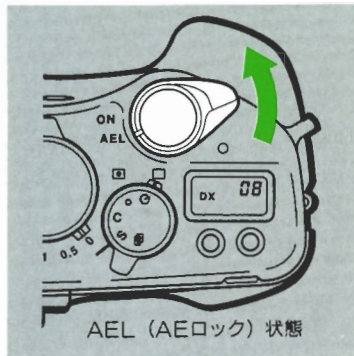
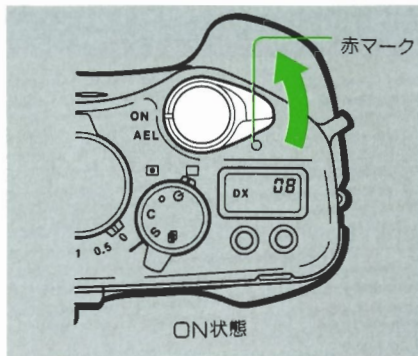
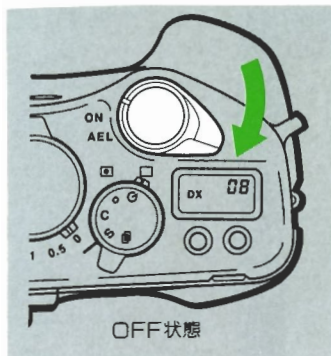
●使用済みの電池を火の中に捨てたり、充電、ショート、分解、加熱するのは危険ですから絶対にしないでください。

●６Vリチウム電池（２CR５）は充電できません。

●電池は幼児の手の届かないところに置いてください。

メインスイッチ

OFF状態

ON状態

AEL（AEロック）状態

電源の"OFF"、"ON"および"AEL"（AEロック）の切り替えを行います。

●誤作動を防ぐためメインスイッチは、クリックの位置にとめてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

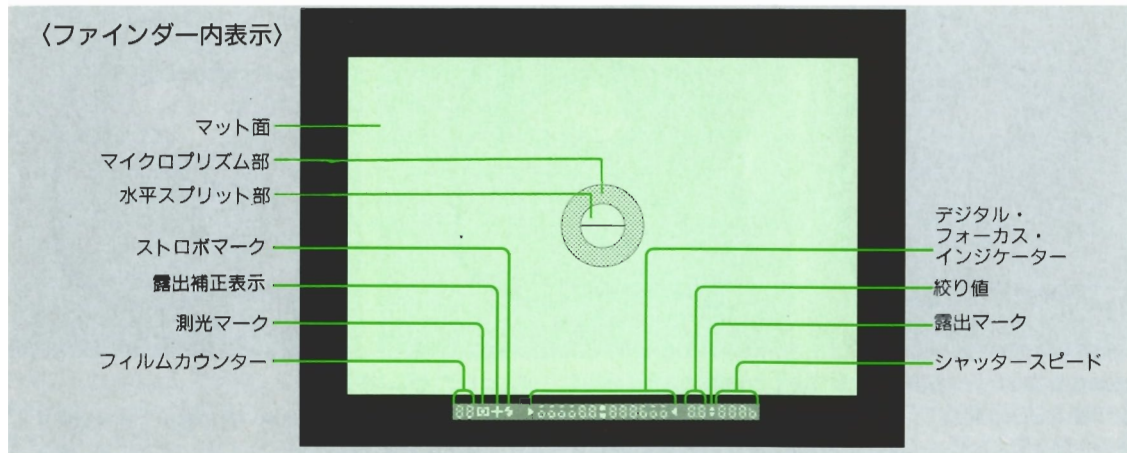
"ON"マーク

カメラの電源が入ります。

"AEL"マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。

●詳しくはP50をご覧ください。

ファインダー内表示および表示パネル

ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

①メインスイッチをONにしたとき。
②メインスイッチONの状態で、露出チェックボタン、またはシャッターボタン半押しで表示されます。

また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示は更に16秒間延長されます。

〈ファインダー内表示〉

ファインダー内表示は、絞り、シャッタースピードなどの露出表示の他に、デジタル・フォーカス・インジケーターなどが表示される、情報集中ファインダーです。

シャッタースピード

シャッタースピードは1/4000秒から16秒が表示され、“4000”は1/4000秒、“125”は1/125秒、“16"”は16秒を表します。

絞り値

絞り優先オート撮影（Av）とマニュアル撮影（M）のときはセットした絞り値を、シャッター優先オート撮影（Tv）とプログラムオート撮影（P）のときはシャッタースピードに応じた絞り値を表示します。

フィルムカウンター

フィルムの撮影枚数を表示します。また、次のような表示もします。

- セルフタイマー時の残り時間表示（10秒〜00まで）。
- A・B・C撮影（3コマ連続自動露出補正）時の作動順序表示。
- 撮影フィルム終了表示

測光マーク

測光方式とＡＥロックの表示をします。

中央重点平均測光の時：“[ ]”マークが点灯します。

スポット測光の時　　：“[•]”マークが点灯します。

中央重点平均測光でＡＥロック：“[ ]”マークが点滅します。

スポット測光でＡＥロック　　：“[•]”マークの中の“●”が点滅します。

露出補正表示

露出補正ダイヤルを“0”以外の値にすると“＋”または“－”のマークが点滅します。

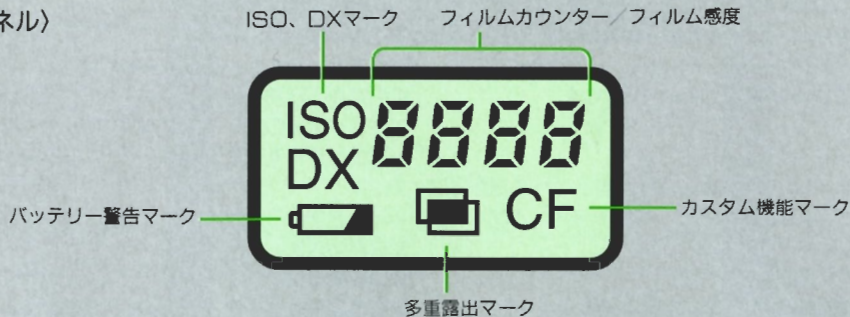
ストロボマーク

ＴＬＡフラッシュシステム使用時、充電が完了すると“⚡”マークが点灯します。またＴＴＬ調光が的確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。

デジタル・フォーカス・インジケーター

ピント合わせに使用します。詳しくはP29をご覧ください。

露出マーク

オート露出モード（“Av”“Tv”“P”）ではオート露出連動範囲外のオーバー“▲”、アンダー“▼”の表示、“M”“X”モードでは、適正露出“⬍”、オーバー“▲”、アンダー“▼”を表示します。

ISO・DXマーク

フィルム感度表示にしたとき、あるいはフィルム感度をセットするモードのときに、表示されます。

・DXコードによる自動セット状態のときは、常に"DX"が表示されます。

フィルムカウンター／フィルム感度

フィルムの撮影枚数を表示します。"アップボタン"、または"ダウンボタン"を押すと押している間、フィルム感度表示になります。

また、次のような表示もします。

・セルフタイマー作動残り時間
・バルブ撮影の経過時間（秒）
・A・B・C撮影時の撮影順序
・多重露出のセット回数
・カスタム機能のセット状態
・撮影フィルム終了時の表示

バッテリー警告マーク

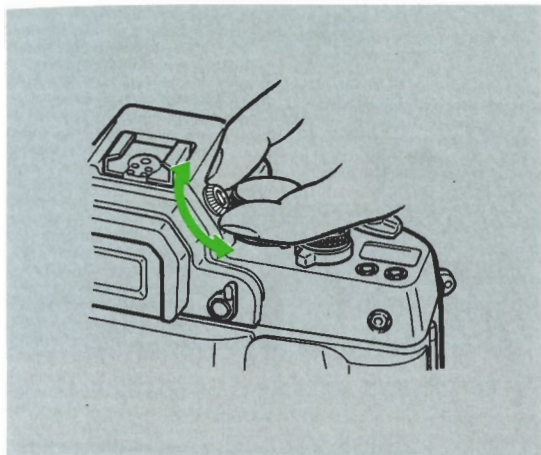
電池の交換時期を表示します。

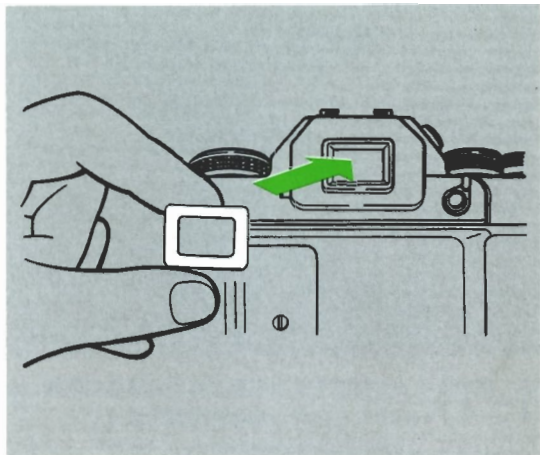
多重露出マーク

多重露出モードになっているときに表示します。

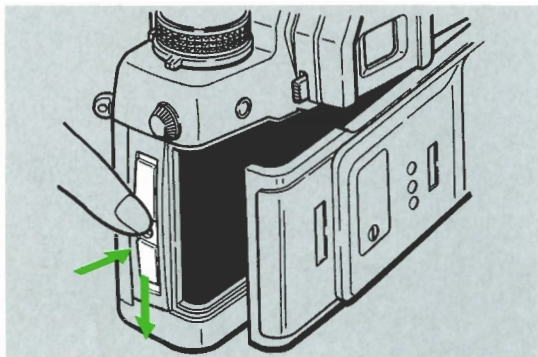
カスタム機能マーク

カスタム機能をセットするときに表示します。

視度調整のしかた

このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整つまみを回転させて、ファインダー内中央の円がはっきり見えるように調整してください。調整範囲は＋1～－3D（ディオプター）です。

●カメラの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、別売りの視度補正レンズＦＬタイプをご利用ください。
視度調整範囲が表のようになります。

視度補正レンズ	調整範囲
な　し	＋1D～－3D
ＦＬ（＋2）	＋4D～－0.5D
ＦＬ（－3）	－1.5D～－5D

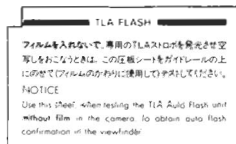
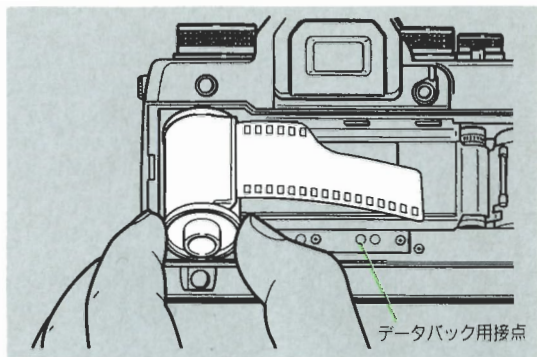
視度補正レンズＦＬタイプは、図のように取り付けます。（アイカップは、視度補正レンズをつけたまま、取り付けることができます。）

フィルムの入れかた

1 裏ぶたロック解除ボタンを押しながら裏ぶた開放レバーを下へスライドさせ、裏ぶたを開けます。

TLA FLASH

フィルムを入れないで、専用のTLAストロボを発光させ空写しをおこなうときは、この圧板シートをガイドレールの上にのせて(フィルムのかわりに使用して)テストしてください。

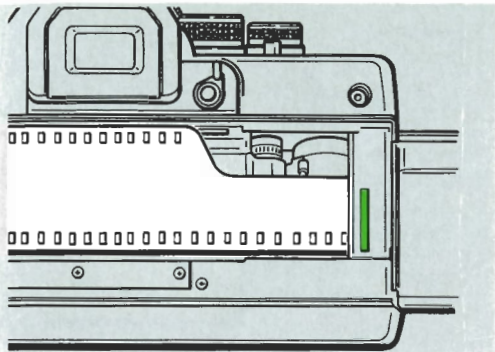
NOTICE

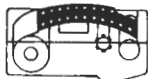
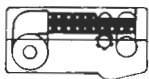
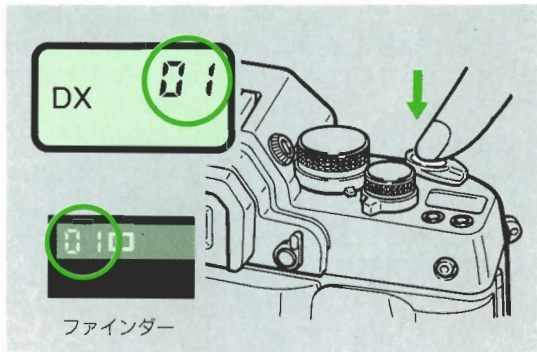
Use this sheet, when testing the TLA Auto Flash unit without film in the camera, to obtain auto flash confirmation in the viewfinder.

●フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている「保護シート」を必ず取りはずしてください。

2 図のように、フィルムパトローネ先端を斜めにして入れます。

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

●DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。

●フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。

3 フィルムの先端をオレンジ色の“ ▬ ”マークの位置まで引出し、そのままスプールの上にのせます。

このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

●フィルムの先が長く出ている場合は、巻戻して長さを調節してください。

4 裏ぶたを閉め、メインスイッチをONにしてシャッターボタンを押します。

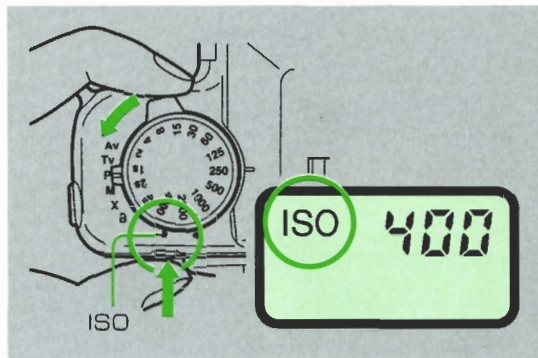
フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは“01”になります。

●表示パネルのフィルムカウンターが“00”のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れなおしてください。

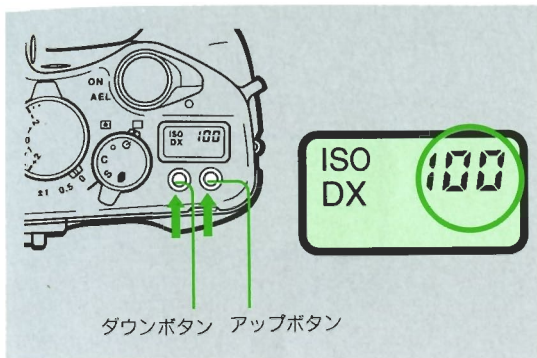
●フィルムカウンターは表示パネルとファインダー内の両方に表示されます。

フィルム感度のセットおよび確認のしかた

フィルム感度のセットは、DXコード利用による自動セットと任意の感度をセットする手動セットの2通りの方法があります。セットしたフィルム感度は表示パネルで確認できます。

表示パネルに“DX”が表示されているときは、DXコードによる自動セットになります。DXコード付きのフィルムをご使用になる場合はそのままお使いください。
“DX”が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。

〈セットのしかた〉

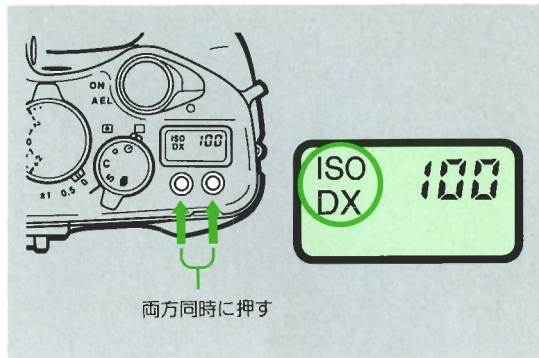
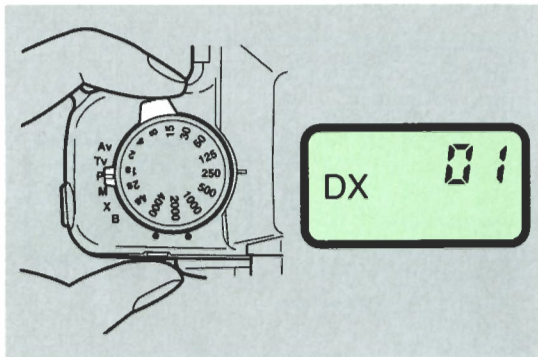
1 メインスイッチを“ON”にして、露出モードロック解除ボタンを押しながら、露出モード切り替えレバーを回し、露出モード指標を“ISO”に合わせます。

・表示パネルに、フィルム感度が点灯表示されます。

2 “アップボタン”または“ダウンボタン”を押して、フィルム感度を“DX”または合わせたい感度値にします。

└→DX←→6←→8←→10←→……←→5000←→6400←┘

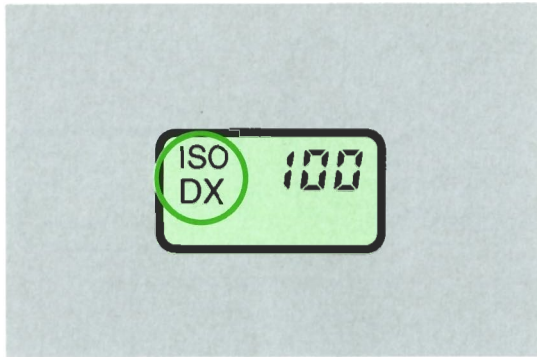
・“アップボタン”を押すと、押すごとに1/3段階ずつ感度が高くなります。

・“ダウンボタン”を押すと、押すごとに1/3段階ずつ感度が低くなります。

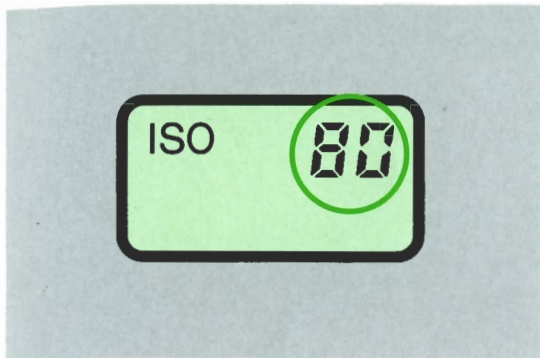
＊ボタンを押し続けるとフィルム感度が連続して変化します。

◎“アップボタン”と“ダウンボタン”を同時に押して、“DX”にセットすることもできます。

3 露出モード切り替えレバーを露出モードにしてください。これでセット完了です。

・表示パネルが、フィルムカウンター表示に戻ります。

●セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されています。

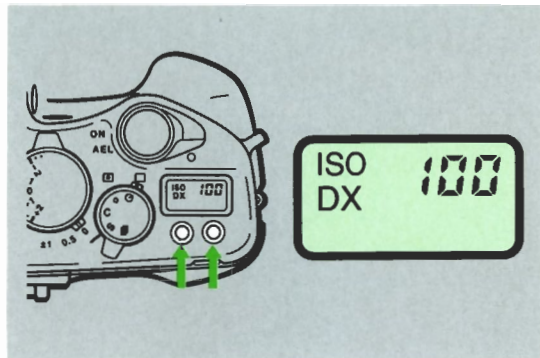
●露出モード切り替えレバーが“ISO”、“CF”のときは撮影できません。

〈“DX”をセットしたとき〉

“DX”にセットしておくと、DXコード付きのフィルムを使うとき、カメラがフィルム感度を自動セットします。DXコード付きフィルムはISO 25～5000まで使用でき、“DX”のマークと感度は、フィルムの外箱に表示されています。

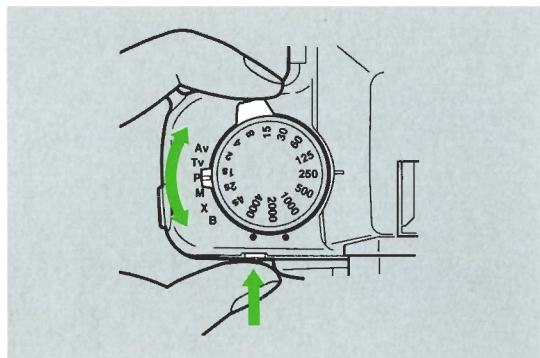
●DXコードのないフィルムは、ISO100に自動セットされます。

〈任意の感度をセットしたとき〉

DXコードのないフィルムのフィルム感度セットや、DX表示と異なるフィルム感度に変えたい場合に使います。

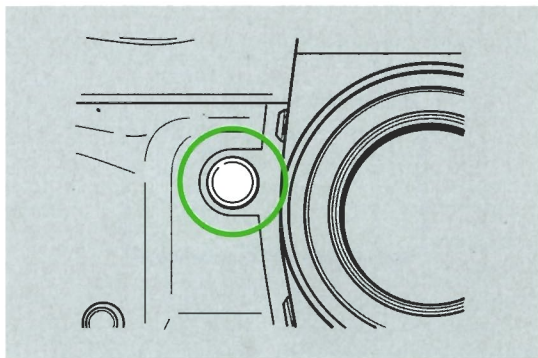
◎フィルム感度は**6〜6400の範囲で1/3段ごとにセットできます。**

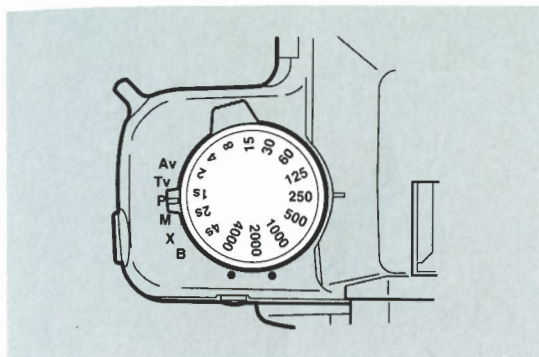
◉感度値をセットすると、DXコード付きフィルム使用時も手動セットした値になります。

〈フィルム感度の確認〉

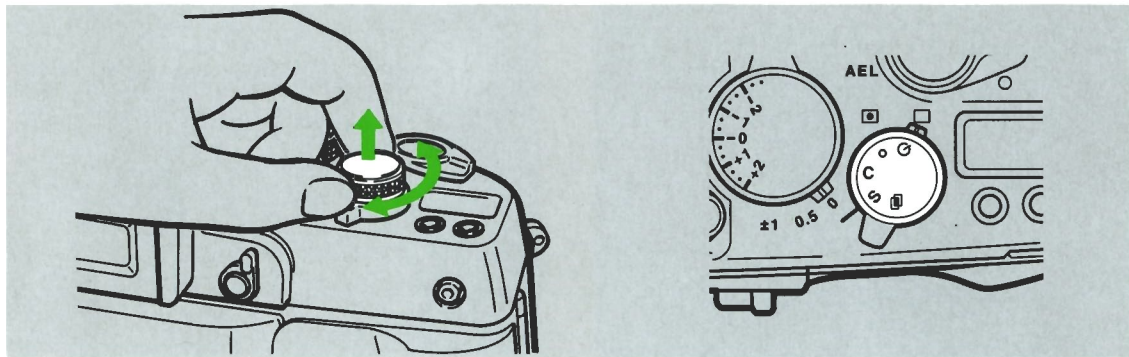
撮影中に、フィルム感度を確認したいときは、“アップボタン”または“ダウンボタン”を押すと、押している間、表示パネルに、その時セットされているフィルム感度が表示されます。

露出モード切り替えレバー

露出モード切り替えに使用します。**露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モード切り替えレバーを回し、露出モード指標をそれぞれの位置に合わせてください。**
また、フィルム感度のセット"ISO"、カスタム機能のセット"CF"のときにも使用します。

各露出モードの詳細は、P37~44をご覧ください。

露出チェックボタン

メインスイッチがONのとき、露出チェックボタンを押すとファインダー内表示が点灯し、露出、ピントを確認することができます。また、シャッターボタンを半押しすることでも確認することができます。

シャッタースピードダイヤル

撮影フィルムの露光時間を調節するもので、"Tv"（シャッター優先オート）および "M"（マニュアル露出）のときに使用します。
シャッタースピードは、４Ｓ（４秒）～4000（1/4000秒）の範囲で１段ごとにセットできます。
●シャッタースピードダイヤルはクリックの位置に止めてご使用ください。

ドライブモード切り替えダイヤル

撮影目的に応じて次のドライブモードが選べます。

ドライブモード切り替えダイヤルは、ドライブモードの切り替えの他に、ファインダー内デジタル・フォーカス・インジケーターの表示の切り替えも行います。

ドライブモード切り替えダイヤル	ドライブモード	ファインダー内表示
“O”（グリーンポジション）	1コマ撮影	18 ▭ 5.6 250（フォーカススケール表示）
“S”	1コマ撮影	18 ▭ 5.6 250（深度スケール表示）
“C”	連続撮影	
“◌”	1コマ撮影（セルフタイマー）	

◎ドライブモード切り替えダイヤルを引き上げながら回し、マークを指標に合わせクリックの位置に落し込んでください。
（“▭”の場合は上がったままになります。）

S…1コマ撮影

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻上げが行われて停止します。

C…連続撮影

カメラのシャッターボタンを押している間、最高約3コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、データバックの写し込みあり／なし、使用する電池の状態などにより変化します。）

◌…セルフタイマー撮影

10秒のセルフタイマー撮影になります。
詳しくはP62をご覧ください。

▭…多重露出撮影

多重露出撮影をするときにセットします。
詳しくはP60をご覧ください。

O…グリーンポジション

1コマ撮影です。
デジタル・フォーカス・インジケーターの切り替えにも使用します。

このカメラにはフォーカシングスクリーンFW-1（水平スプリット／マイクロプリズム式）が標準装備されています。ピント合わせは、ファインダー中央の水平スプリット部、マイクロプリズム部、または周辺のマット面で行います。
※フォーカシングスクリーンは交換することができます。
詳しくはP83ページをご覧ください。

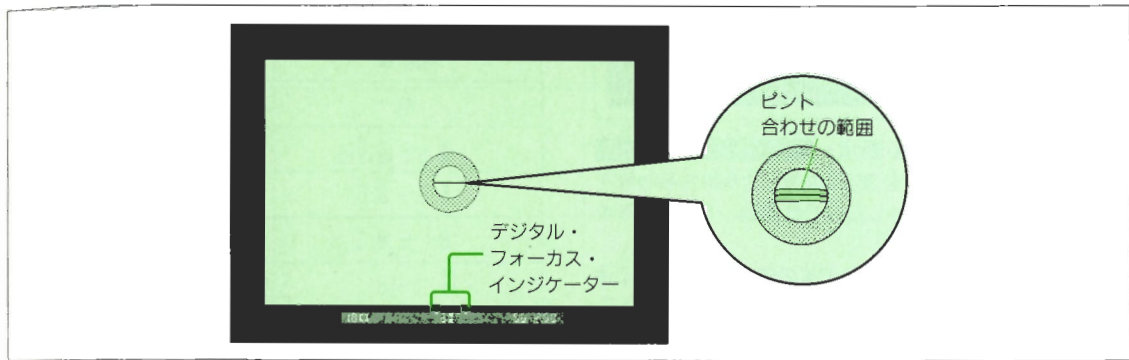
〈水平スプリット部の場合〉

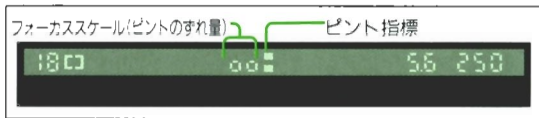
ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、中央にある上下に分割された像が一致するようにします。ピントが合っていないときは、スプリット部の像がズレます。

〈マイクロプリズム部、またはマット面の場合〉

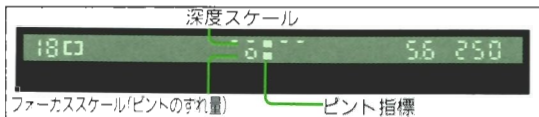
距離リングを回して、マイクロプリズム部か周辺のマット面の像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないときは、マイクロプリズム部ではギザギザに、マット面ではボケます。

●暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時には、ピントが合わせにくくなることがあります。このときは周囲のマット面でピントを合わせてください。

デジタル・フォーカス・インジケーターと グリーンポジションの使いかた

このカメラは、フォーカシングスクリーンを使ったピント合わせの他に、デジタル・フォーカス・インジケーターでピントを合わせることもできます。
デジタル・フォーカス・インジケーターのピントを合わせる範囲はスプリット部内側の分割線上で、図の範囲になります。
フォーカシングスクリーンの水平スプリット部、マイクロプリズム部、またはマット面で大まかにピントを合わせてからデジタル・フォーカス・インジケーターを利用することで、より早くピント合わせを行うことができます。

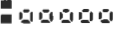
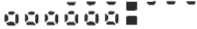
デジタル・フォーカス・インジケーターには、"フォーカススケール表示" と "深度スケール表示" があります。ドライブモード切り替えダイヤルを、"**O**" (グリーンポジション) にすると、"フォーカススケール表示"、その他のモードにすると "深度スケール表示" になります。撮影の目的に合わせてお使いください。

〈フォーカススケール表示〉 グリーンポジションにセット時

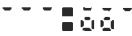
被写体とのピントのずれを表示します。合焦のちらつきを少なくするために、セットした絞りに連動して合焦幅を変化させています。

●合焦状態を見やすくした表示ですので、一般撮影にご使用ください。

〈深度スケール表示〉

絞りに連動した深度スケールと、ピント合わせに連動したフォーカススケールの両方を表示しています。

この表示は、ねらった被写体と自分が合わせたピントのずれ量を把握すると同時に、その絞りに合った深度範囲内であることも確認することができます。

深度スケール表示は、ファインダー内に表示された絞り値に連動します。

〈絞り値と深度スケールの表示〉

絞り値	深度スケール表示
※	■
4 ～ 4.5	-■-
5.6～ 6.5	--■--
8 ～ 9.5	---■---
11 ～13	----■----
16 ～19	-----■-----
22 ～	------■------

※F3.5より明るい絞り値の場合は深度スケールの表示はありません。

●合焦点をより正確に表示していますので、被写体やカメラの少しの動きによってもフォーカススケールのちらつきが現れることがあります。デジタル・フォーカス・インジケーター機能を使って、より正確にピント合わせを行うときにおすすめします。

〈デジタル・フォーカス・インジケーター機能一覧表〉

ドライブモード切り替えダイヤルの位置	表示		ピントの状態	操作方法
“○” (グリーンポジション)	フォーカススケール表示	□□□□□■	[後ピン] 被写体にピントが合っていません。 被写体より遠距離のものにピントが合っています。	レンズの距離リングを回し、フォーカススケールをピント指標に一致するようにして撮影します。
		■	[合焦] 被写体にピントが合っています。	
		■□□□□□	[前ピン] 被写体にピントが合っていません。 被写体より近距離のものにピントが合っています。	
“S” “C” “ᗜ”	深度スケール表示	□□□□□□■- - -	[後ピン] 被写体にピントが合っていません。 被写体より遠距離のものにピントが合っています。	レンズの距離リングを回し、フォーカススケールがピント指標に一致するようにしてください。 フォーカススケールが深度スケール範囲内になるようにすると被写体が深度範囲でピントのあった写真になります。
		-□□■- - -	被写体よりもやや遠距離のものにピントが合っています。 被写体は深度の範囲でピントの合った写真が撮れます。	

〈デジタル・フォーカス・インジケーター機能一覧表（つづき）〉

ドライブモード切り替えダイヤルの位置	表示		ピントの状態	操作方法
“S” “C” “Ò”	深度スケール表示		［合焦］ 被写体にピントが合っています。	レンズの距離リングを回し、フォーカススケールがピント指標に一致するようにしてください。 フォーカススケールが深度スケール範囲内になるようにすると被写体が深度範囲でピントのあった写真になります。
			被写体よりもやや近距離のものにピントが合っています。 被写体は深度の範囲でピントの合った写真が撮れます。	
			［前ピン］ 被写体にピントが合っていません。 被写体より近距離のものにピントが合っています。	
	測距不能表示		フォーカススケール表示、深度スケール表示とも、測距不能の場合は両端の▶　◀が点滅します。デジタル・フォーカス・インジケーターではピントが合わせられません。	レンズの距離リングを回して、スプリット部、マイクロプリズムまたはマット面を利用してピントを合わせてください。

●ムターや接写アクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、オート接写リング、リバースリング等）を使用のときは、ファインダー内絞り表示と連動していないため、深度スケール表示でも深度を確認することができません。
●デジタル・フォーカス・インジケーターの表示は、目安としてご利用ください。レンズの被写界深度目盛と一致しないことがあります。
また、合焦点にピントの合う幅があるために、スプリット部やマイクロプリズム部によるピント合わせと一致しないことがあります。
●開放F値が5.6より暗いレンズ使用時、またはムターや接写アクセサリーを使用して、実絞り値が5.6より暗くなるときはデジタル・フォーカス・インジケーターを使用してのピント合わせはできません。このようなときは、マット面でピント合わせを行ってください。
●ミロター500mm F4.5、ミロター1000mm F5.6、N-ミロターで、デジタル・フォーカス・インジケーターを使用してのピント合わせはできません。

〈デジタル・フォーカス・インジケータの苦手な被写体〉

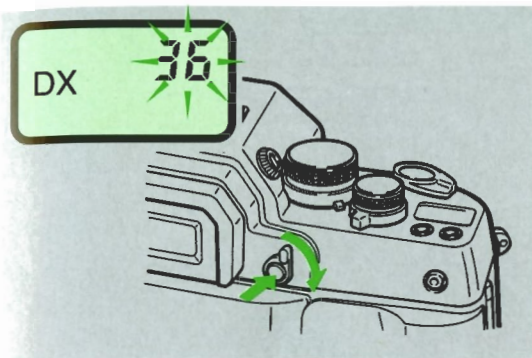
デジタル・フォーカス・インジケーターは次のような被写体についてはピントが合わせられないことがあります。このようなときには、フォーカシング・スクリーンによるピント合わせを行って下さい。

①非常に明るいか、または非常に暗い被写体
②被写体のコントラストが極度に低いとき
③スプリット部やその周辺に太陽光など強い光源があるとき
④スプリット部内に極度に距離の違う2つ以上の被写体が共存するとき
⑤横線のみの被写体、または縦線の繰返しパターンが続く被写体
⑥NDフィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合

カメラの構えかた

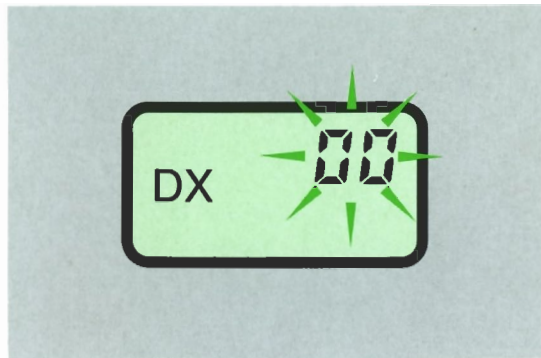
ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。
建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

フィルムの巻戻し

撮影フィルムを全部写し終ると、巻上げが止まり、表示パネル・フィルムカウンター表示の上桁、下桁が交互に点滅します。

1 メインスイッチをONの状態で、巻戻しロック解除ボタンを押しながら、巻戻しレバーを矢印の方向に回してください。フィルムの巻戻しが始まります。

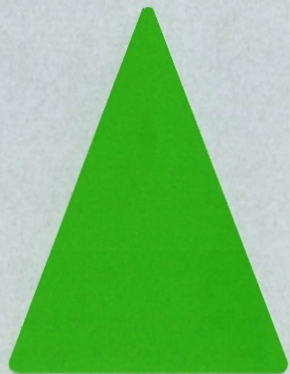
・フィルムカウンターは減算表示され、巻戻しが終了するとモーターが停止しカウンターは“00”の点滅表示になります。

●巻戻しが始まったときは巻戻しレバーから必ず手を離してください。巻戻しレバーは自動的に元に戻ります。

2 モーターが停止し、フィルムカウンターが“00”になったのを確認してから裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

取り出しは直射日光を避けてください。

●フィルムの途中からの巻戻しも1、2の順で行ってください。

●巻戻し後は、必ずフィルムを取出してください。巻戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。

撮影操作と応用テクニック

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。

Av：絞り優先オート

あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

Tv：シャッター優先オート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめシャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に選定され、適正な露出の写真が撮れるようになっています。動きのあるスポーツなどの撮影に適しています。

P：プログラムオート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組合せの中から、被写体の明るさに適した組合せをカメラが自動的に選びます。
露出を気にする必要がないので作画に専念したり、シャッターチャンスに専念できます。

M：マニュアル露出

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

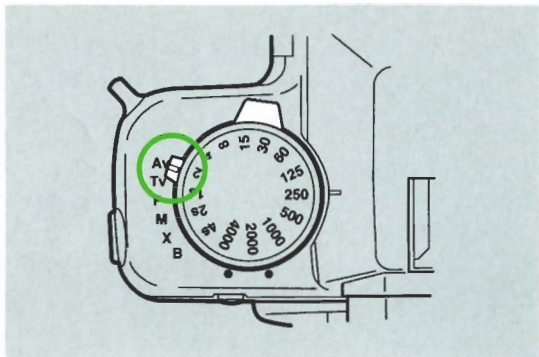
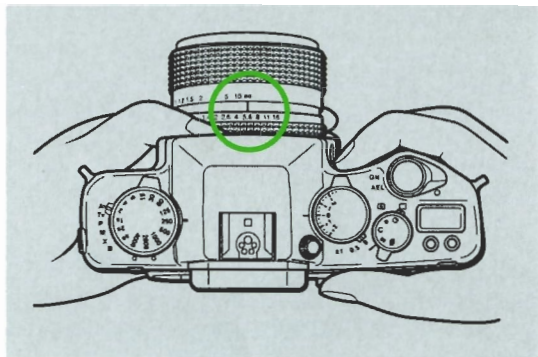
X：ストロボ撮影

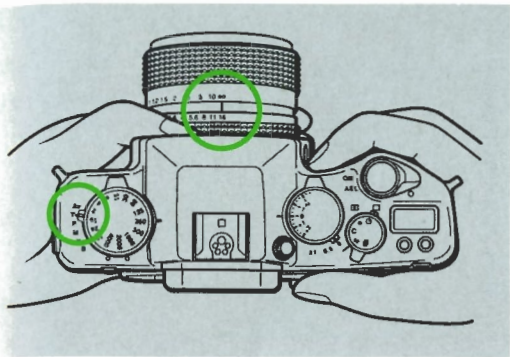
当社専用ストロボ連動接点のない、X接点のみの汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。
詳しくは、「TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影」（P59）をご覧ください。

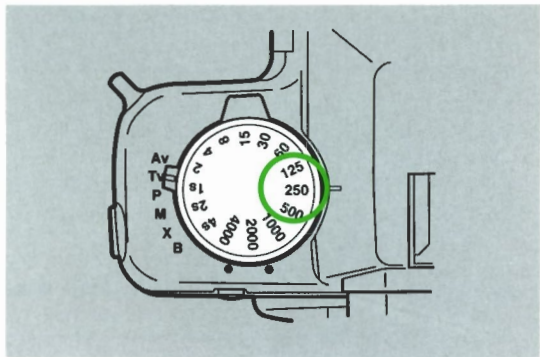
B：バルブ

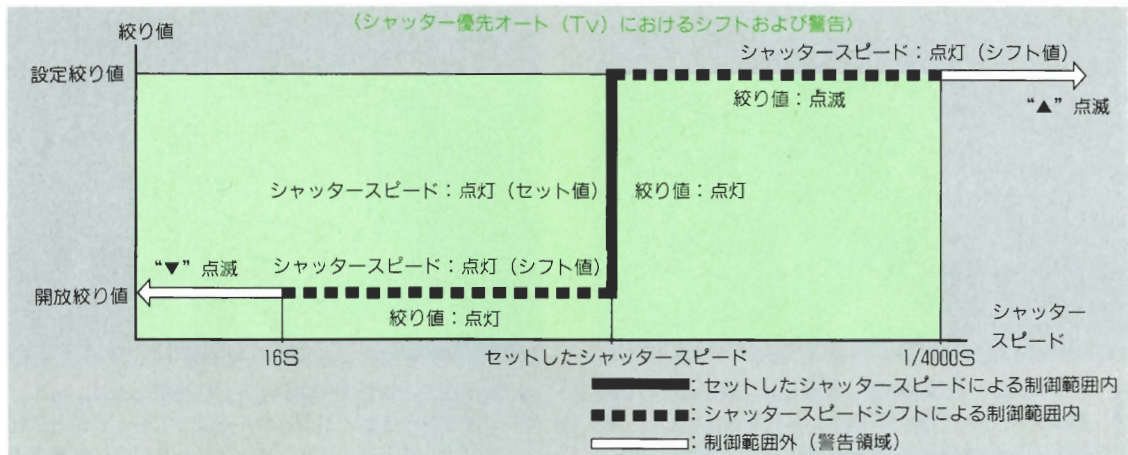
長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

●AEレンズ装着のときは、“Tv”、“P”で撮影することはできません。“Tv”、“P”にセットされていても、実際の撮影は“Av”で行われます。
●レンズ未装着のときは、“Tv”、“P”にセットされていても自動的に“Av”になります。

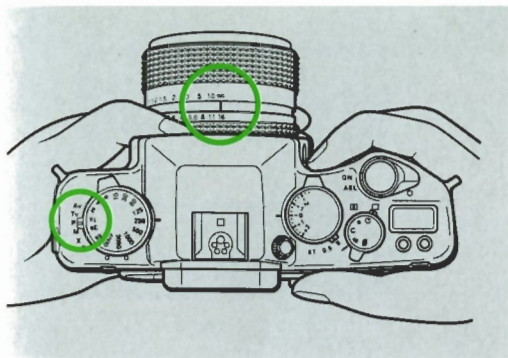
絞り優先オート撮影［Av］

1 露出モード切り替えレバーを“Av”にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。
レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされ、ファインダー内に、セットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが点灯表示します。
シャッタースピードダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。

シャッター優先オート撮影［Tv］（MMレンズ装着時のみ）

1 レンズの絞りを緑色の最小絞りにし、露出モード切り替えレバーを“Tv”にセットします。

MMタイプのレンズでは、プログラムオート、またはシャッター優先オート撮影時のセット位置として絞りリングの最小絞りが緑色で表示されています。

2 シャッタースピードをセットし、撮影します。

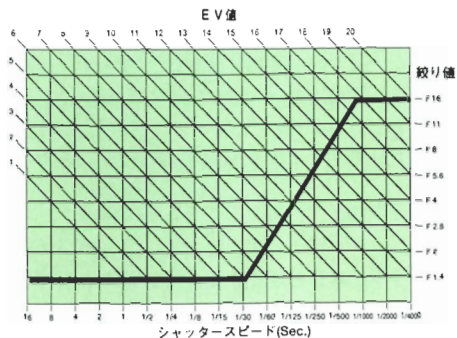
シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードをセットすると、シャッタースピードに応じた適正絞りが自動セットされ、ファインダー内に、セットしたシャッタースピードと自動セットされた適正絞りが点灯表示します。

"Tv"モードの場合、セットしたシャッタースピードでは、適正絞り値が絞り範囲外になるとき、適正露出を得るため自動的に違うシャッタースピードにシフトされ、常に適正露出になるよう調整されます。このときシャッタースピード表示はシフトした値になります。自動シフトしたシャッタースピードは、16秒～1/4000秒まで連動（制御）します。

- セットしたシャッタースピードよりも適正シャッタースピードが速い場合には絞り表示が点滅します。このときは、絞りが最小絞りになっているか確認してください。
- MMレンズを最小絞りとは異なる絞りにセットしたときは、セットした絞りと開放の間で絞りが自動セットされます。

プログラムオート撮影［P］（MMレンズ装着時のみ）

1 レンズの絞りを緑色の最小絞りにし、露出モード切り替えレバーを"P"にセットします。

2 撮影します。

・明るさによりプログラムされた絞りとシャッタースピードの組合せが自動的にセットされ、ファインダー内に、自動セットされた絞りとシャッタースピードが点灯表示されます。

プログラムオート制御図
（F1.4レンズ使用、ISO100・F16にセット）

〈プログラムオート制御図〉

プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組合せは図のようになっています。

●レンズの絞りが最小絞りにセットされていないときは、制御範囲がせまくなります。

オート露出撮影（Av.Tv.P）時のご注意

〈オート露出撮影時の露出オーバー／アンダー警告〉

露出オーバー警告

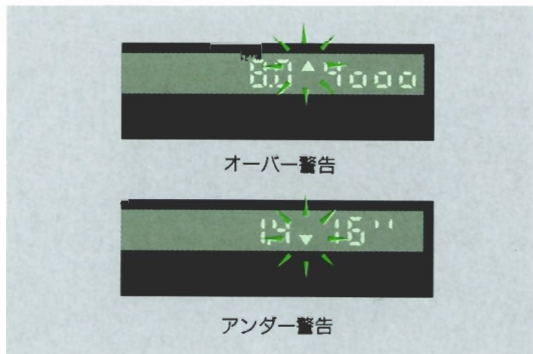
露出マーク“▲”が点滅するときは、露出オーバーになります。被写体が明るすぎますので、絞りを調整し直して、“▲”が消えるようにしてください。また、別売りのNDフィルター（光量制限用）で光を調整することができます。

露出アンダー警告

露出マーク“▼”が点滅するときは、露出アンダーになります。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを変えたりして“▼”が消えるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

●露出オーバー／アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

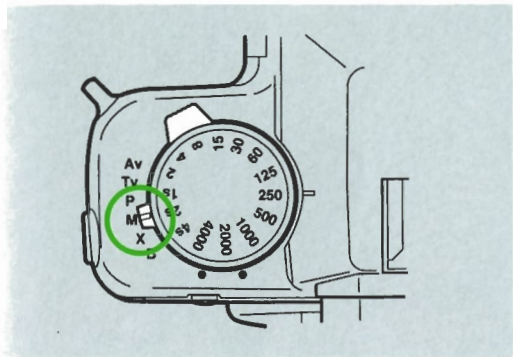
オーバー警告

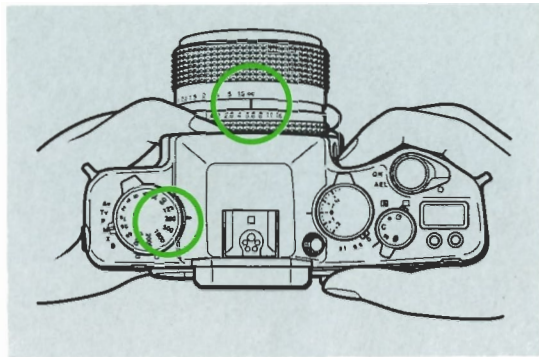
アンダー警告

〈アクセサリー使用上の注意〉

開放F値が5.6より暗いレンズ、または自動絞りの連動しないアクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、接写リング7.5mm、リバースリングなど）を使用する場合は次のことに注意してください。

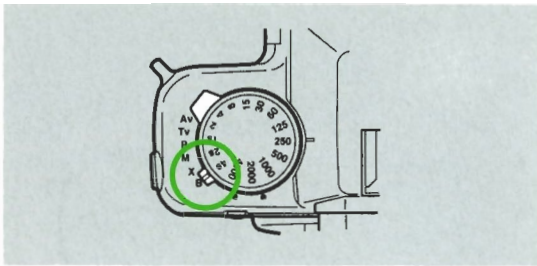
①ファインダー内の絞り表示は“1.4”に固定されますが測光機能は正常に作動します。

②“Tv”、“P”での撮影はできません。“Av”、または“M”にして撮影してください。

マニュアル露出撮影［M］

1 露出モード切り替えレバーを“M”にセットします。

2 シャッタースピードと絞りをセットし、撮影します。
シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードをセットし、絞りはレンズの絞りリングでセットします。

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示され、露出マークが点灯します。

“▲”：オーバー
“▲▼”：適正
“▼”：アンダー

シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、“▲▼”表示にしてください。

バルブ撮影（B）

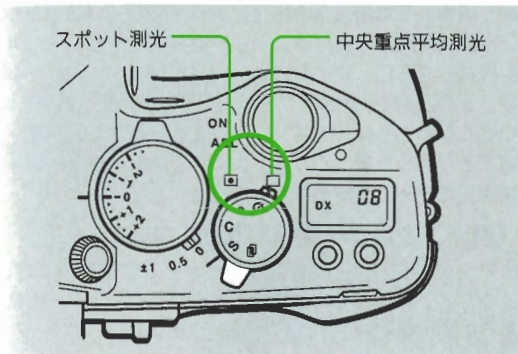
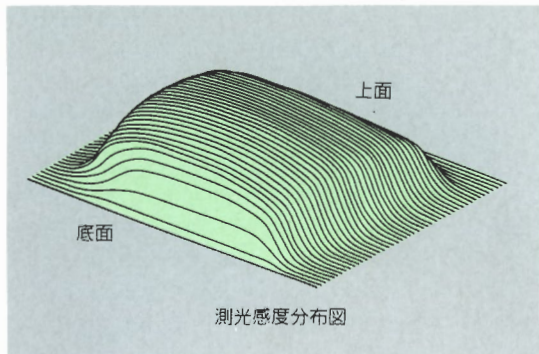
1 露出モード切り替えレバーを“B”にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。

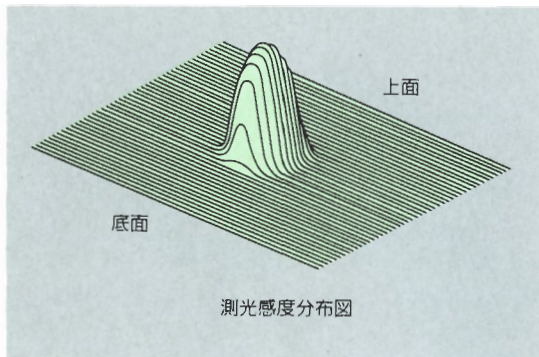
シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルのフィルムカウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は“0'00”から“9'59”（9分59秒）までカウントされ、以後その繰返し表示になります。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。

測光方式

測光感度分布図

このカメラには中央重点平均測光とスポット測光の２通りの測光方式があり、測光切り替えレバーでセットします。撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

〈中央重点平均測光〉（ □ マーク）

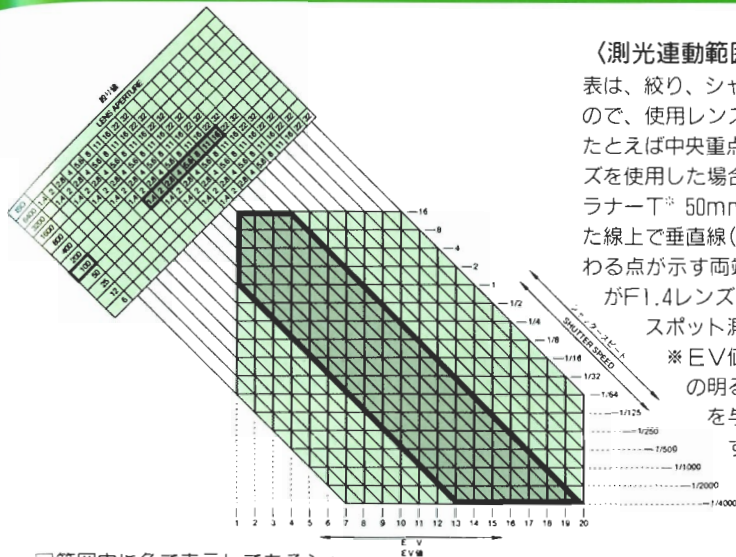
主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも容易に露出を決めることができます。

測光感度分布図

〈スポット測光〉（ ◘ マーク）

ファインダー画面中央のほぼマイクロプリズム部分にあたる被写体の明るさのみを測光して、露出を決める方式で、ファインダー内中央外側の円内が測光の範囲です。
たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合**などは、このスポット測光を利用するときれいな写真が撮れます。

●このカメラは測光系の特性により、開放F値が5.6より暗いレンズ使用時、またはムターや接写アクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、オート接写リング、リバースリング等）を使用して実絞り値が5.6より暗くなるときは、スポット測光を行うと測光誤差を生じることがあります。このような条件で使用するときは中央重点平均測光にして撮影してください。

〈偏光フィルター使用の撮影について〉

偏光フィルターは、円偏光フィルターをご使用ください。このカメラは測光系の特性上、直線偏光フィルターを使用すると測光誤差を生じることがあります。

〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。
たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の"1.4"と"16"(プラナーT* 50mmの最小絞り値はF16です)から斜めに延長した線上で垂直線(EV線)と水平線(シャッタースピード値)が交わる点が示す両端の範囲、すなわちEV"1"からEV"20"がF1.4レンズ使用時の測光連動範囲です。
スポット測光時は測光連動範囲がEV5〜20になります。

※EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組合せを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F16, 1/30秒でもF8, 1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

□範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの16秒から1/4000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲を示します。

■範囲内に色で示してある部分は、ISO100フィルムでF1.4レンズ使用時の測光連動範囲を示します。

露出の補正

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

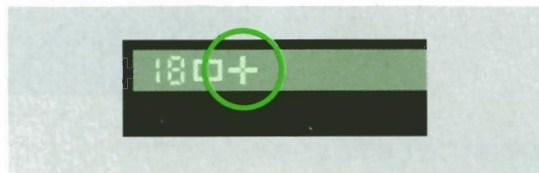
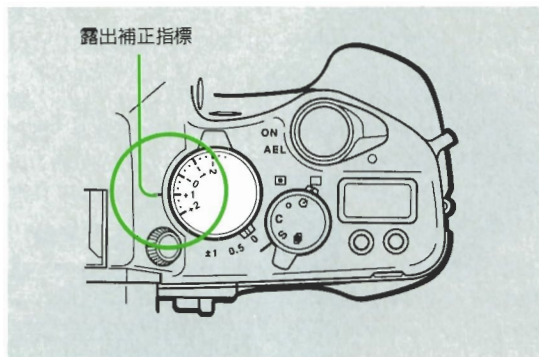
〈1、露出補正ダイヤルの利用〉

露出モードが“Av”、“Tv”、“P”、“M”いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。

補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。

露出補正ダイヤルを“0”以外にあわせると、ファインダー内に、補正に合わせて“＋”または“－”マークが点滅し補正中であることを表示します。

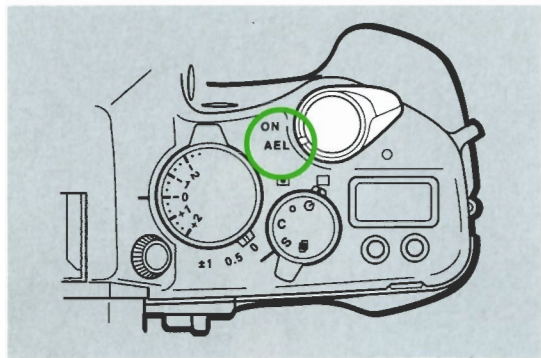
露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート(Tv)	絞り
プログラムオート (P)	絞りとシャッタースピード

“M”時は、露出マークが補正値に応じて点灯しますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを動かし、露出マークが“⬍”になるようにして撮影してください。

撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを“0”に戻してください。

逆光撮影などのときは……
“+1/3”～“+2”の範囲で補正します。

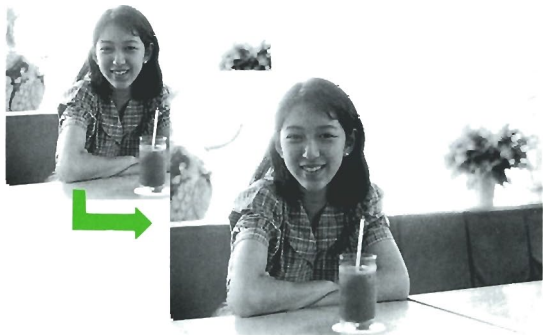
中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を+1/3～+2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

暗い背景などのときは……
“−1/3”～“−2”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を−1/3～−2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈2、AEロックの利用〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組合せ）を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。

メインスイッチを“AEL”にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

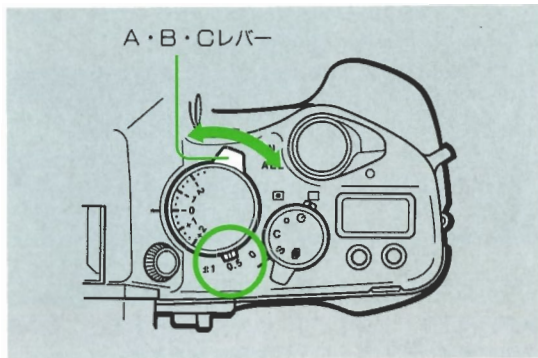
1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光切り替えレバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

●AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。

●AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

●AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
●連続撮影（ドライブモード"C"）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
●このカメラは、シャッタースピードと絞りの組合せで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、"Av" のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
●AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出は次のように変化します。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート(Tv)	絞り
プログラムオート (P)	絞りとシャッタースピード

〈3、A・B・C撮影（3コマ連続自動露出補正）〉

このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとでも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。
※A・B・C：Automatic Bracketing Control

1 A・B・Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A・B・C撮影に切り替わります。

補正幅は±0.5EV、±1EVの2種類が設定できます。

A・B・C撮影は、シャッタースピードまたは絞りをコントロールして自動露出補正を行います。

露出モード	コントロール内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート(Tv)	絞り(絞りの制御範囲を越える場合はシャッタースピードを自動的にコントロールします。)
プログラムオート (P)	シャッタースピード
マニュアル (M)	シャッタースピード

●露出補正ダイヤルを“0”以外にセットすると、その補正値を基準にしたA・B・C撮影になります。

●撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA・B・C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。

●A・B・C撮影が終了したら、必ずA・B・Cレバーを“0”に戻してください。

●ストロボを併用するA・B・C撮影はできません。

2 ドライブモードを連続撮影“C”にして、シャッターボタンを押し続けると、セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。
ドライブモードを“S”または“o”にすると1コマごとのA・B・C撮影になります。
ドライブモードを“ౕ”にすると、10秒後に連続撮影によるA・B・C撮影になります。
A・B・C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅

スタンダード　　オーバー　　アンダー

例えば18コマ目からA・B・C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	（以後繰返し）
補正：	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター：	18	19	20	21
表示：	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

- ●補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- ●途中で中止するときは、A・B・Cレバーを“0”にしてください。
- ●A・B・C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、A・B・C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。
このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する"TTLダイレクト測光"による撮影が行えます。
TLA360ストロボをご使用のときは、必ず「別売アクセサリー"CONTAX TLA360ストロボ"」の項（P79）をあわせてご覧ください。
また、X接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、露出モード切り替えレバーを"X"にセットしてご利用いただけます。

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

2 ストロボを"TTLオートモード"にセットします。

充電が完了するとファインダー内に"⚡"マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

●Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	(表示)
16秒～1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60"が点灯～"125"が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

●Tv(シャッター優先オート)のとき

シャッターダイヤルのセット	自動セット シャッタースピード	(表示)
4秒　～1/125秒	4秒～1/125秒(シャッターダイヤルのセット値のまま)	
1/250秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

●P(プログラムオート)のとき

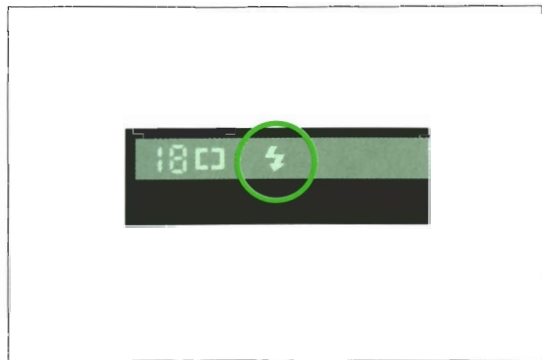
自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	(表示)
16秒～1/60秒	1/60秒	60が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	60が点灯～125が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	125が点灯

●M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

・“M”のときはシャッタースピードは自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
・セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。
・“X”のときはシャッタースピードが1/125秒にセットされ、ファインダー内に“125”が点灯表示されます。
・“B”のときは“バルブ撮影”になり、ファインダー内に“buLb”が表示されます。

3 絞りをセットして撮影します。

露出モード	絞り
Av、Tv、M、X、B	絞りをセットしてください。 セットした絞りで撮影されます。
P	最小絞り（緑色）にセットしてください。 自動セットされます。(F4：ISO100) 明るい時は自動的に絞りこみます。

● “Tv”モードのとき絞りは自動セットされません。ストロボ撮影時は必ず絞りをセットしてください。

撮影後、調光が行われたときはファインダー内“⚡”マークが2秒間点滅します。

● 撮影後、“⚡”マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影しなおしてください。
● 近接撮影時、“⚡”マークが撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
● A・B・Cレバーは必ず“0”にしてください。
● ドライブモードが“C”（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認の上ご使用ください。
● フィルム感度はISO25〜400に連動します。(露出補正は含みません。)

〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行なうには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

■露出モードが“Av”、“Tv”、“P”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

■露出モードが“M”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ“♦”が点灯するようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

● スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

■露出モードが“Av”、“Tv”のとき

ストロボ充電完了後、“▲”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで、“▲”を消して撮影してください。

■露出モード“P”のとき

明るいところでは、自動的に露出が調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

■露出モードが“M”、“X”のとき

“M”の時は、シャッターダイヤルを“125”以下にセットしてください。

絞りを調整し、ファインダー内露出警告マークが“⬍”表示になるようにして撮影します。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

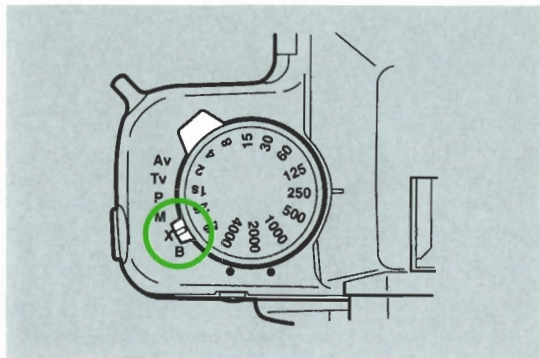
TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。

このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。

ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

●露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影〉

露出モード切り替えレバーを“X”にします。

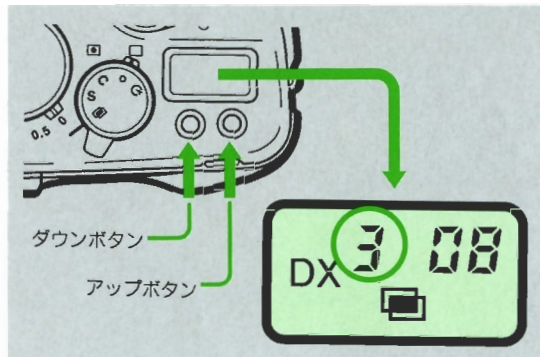
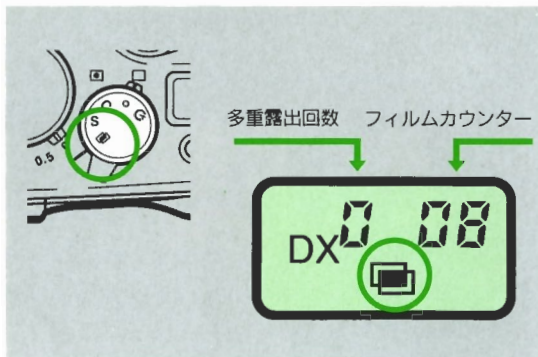
1 カメラにストロボを取付け、露出モード切り替えレバーを“X”にセットします。

シャッタースピードは、1/125秒になります。

・シャッタースピードダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

2 絞りをセットして撮影します。
絞りは、使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

●ダイレクト接点式でない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

多重露出撮影

同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

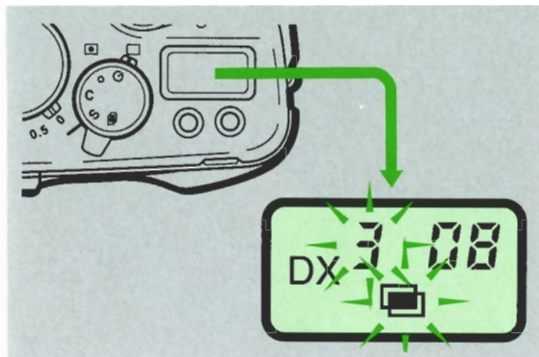
1 ドライブモード切り替えダイヤルを引き上げて、多重露出モード“▣”にセットします。

・表示パネルが、図の表示になります。

・この位置では、ドライブモード切り替えダイヤルは上がったままになり、ダイヤル下部にオレンジ色の警告表示が現れます。

2 “アップボタン”、“ダウンボタン”を押して、多重露出する回数をセットします。

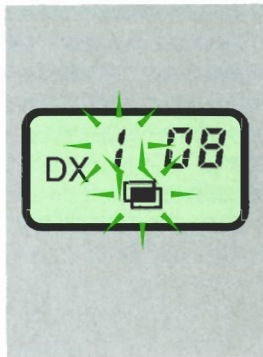
・ボタンを押すごとに、0 ←→ 2 ←→ 3 ←→……←→ 9 まで変わり、点灯表示になります。

たとえば、“3”を表示させると、同じ画面に3回重ねて露光できます。

3 ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”以外に戻します。

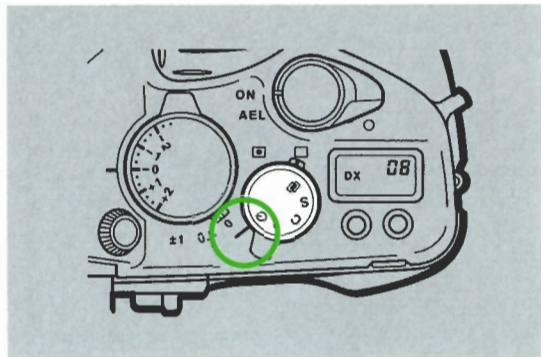
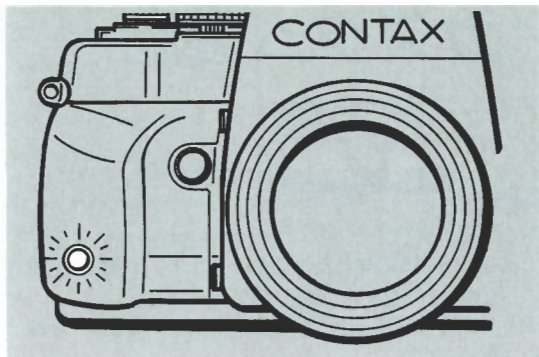
・表示パネルの表示・“多重露出回数”と“▣”が点滅表示になります。

●ドライブモード切り替えダイヤルが“▣”の位置では撮影できません。

4 シャッターボタンを押して1回目の露光を行います。

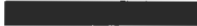
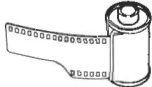
・シャッターボタンを押すと1回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。
表示パネルの多重露出回数の表示が1回分、減ります。

5 さらにシャッターボタンを押して次の露光を行います。

・**4**と同様にシャッターだけがセットされ、多重露出回数がさらに1回分、減ります。
・最後の露光を行うとフィルムが送られて、表示パネルは通常の表示にもどります。

◉撮影の途中でメインスイッチを“OFF”にすると、次に“ON”にしたときは、多重露出の続きの撮影になります。
◉撮影の途中で多重露出を中止する場合は、上記 1、2の操作をして多重露出回数を“0”にしてください。
ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”から他の位置に戻すと、フィルムが送られ多重露出が終了します。
◉多重露出回数をセットした後、撮影を開始する前にメインスイッチを“OFF”にすると多重露出は中止されます。

1 ドライブモード切り替えダイヤルを“Ô”にセットします。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動中、表示パネルのフィルムカウンターが、シャッターが切れるまでの残り時間（秒）を示す表示になり、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

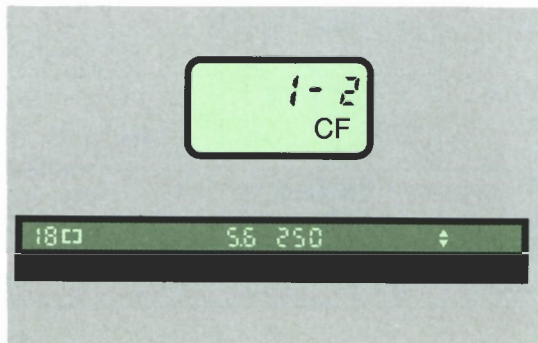
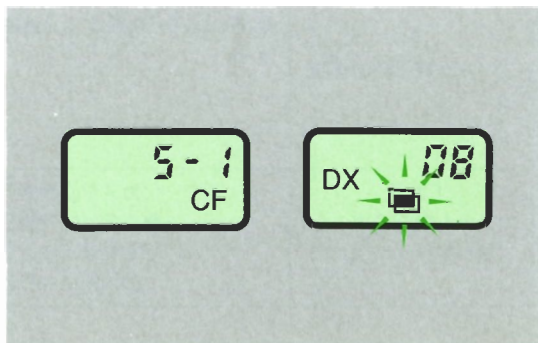
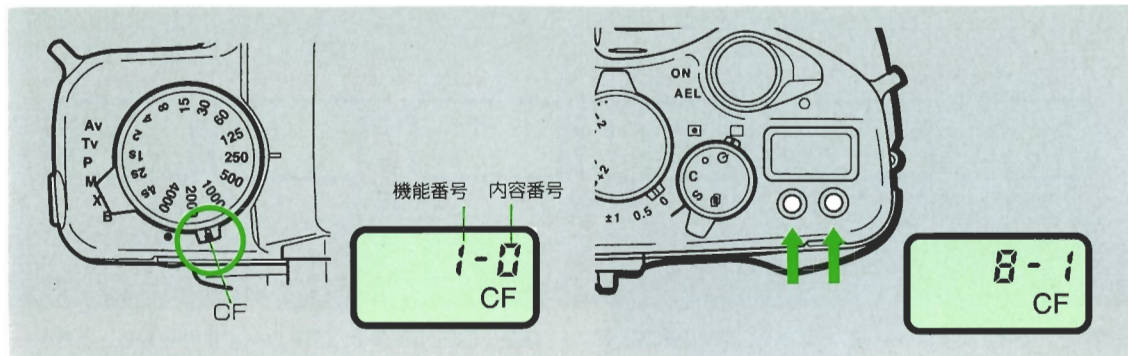
●セルフタイマー撮影時は、三脚をご使用ください。
●露出モードを“B”（バルブ）にセットしたときはセルフタイマーは使用できません。
●オート露出（“Av”、“Tv”、“P”）時は、接眼部から入る光が測光に影響しないよう、アイピースシャッターで接眼部をしゃ閉してください。
●セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、カウンターはまた最初に戻り残り時間をカウントします。
●次の操作をすると、セルフタイマーの作動は途中解除されます。
・メインスイッチを“OFF”にしたとき。
・ドライブモードを切り替えたとき。
・露出モードを“B”（バルブ）にしたとき。
・巻戻しスイッチを“ON”したとき。
・絞り込みボタンを押したとき。

カスタム機能

このカメラには、P65～67の表のように、9項目の“カスタム機能”を搭載しています。
お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号“0”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“0”状態を基本に説明してあります。）
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P69）をご覧ください。
●カスタム機能を変更した場合は、カメラの操作・手順にご注意ください。

カスタム機能一覧表

機能番号＼内容番号	標準設定	変更設定		
	0	1	2	3
1 ドライブモード S、C、Ⓢ のときの ファインダー内表示の切り替え	測距重視表示 （深度スケール表示） 被写体とのピントのずれ量および絞りによる深度の幅を表示	測距重視表示 （フォーカススケール表示） 被写体のピントのずれを表示	測光重視表示 測光情報をファインダー中央で確認できる ※1	ファインダー内表示なし 作画に専念できます
2 "○"（グリーンポジション）のドライブモード切り替え	"S"（1コマ撮影）	"C"（連続撮影）		
3 "○"（グリーンポジション）のファインダー内表示切り替え	測距重視表示 （フォーカススケール表示） 被写体のピントのずれを表示	測距重視表示 （深度スケール表示） 被写体とピントのずれ量および絞りによる深度の幅を表示		

4 露出チェックボタン、シャッターボタン半押し時の露出チェック機能	露出チェック表示	露出モード“Av”“Tv”“P”のとき、ボタンを押している間その時の露出が固定されます。(ストロボ充電完了時を除く) ●メインスイッチによる連続AEロック時は、連続AEロックが優先します。		
5 多重露出設定方式の切り替え	多重露出回数をセットして、多重露出 意図した多重露出回数を正確に行うことができる	ドライブモード切り替えダイヤルを“▭”にセットするだけで、状況に応じて必要な回数の多重露出を行うことができる ※2		
6 A・B・C撮影順序の切り替え	撮影順序が スタンダード ↓ オーバー ↓ アンダー	撮影順序が オーバー ↓ スタンダード ↓ アンダー		

7 絞り込みボタン操作方法の切り替え	絞り込みボタンを押している間絞り込み	絞り込みボタンを1度押すと絞り込み、もう1度押すと開放になる		
8 フィルム巻戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む	フィルムの先端をパトローネの外に残す		
9 フィルム終了時の巻戻し	巻戻しレバーを操作する	自動巻戻し		
CLE カスタム機能のオールリセット	カスタム機能（1〜9）の内容をすべて標準設定“0”にする ●この状態で露出切り替えレバーを“CF”以外にするとそれまでにセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定“0”の状態になりますので注意してください。			

※1：“測光重視表示”では、シャッタースピードと絞りを中央部に表示します。この表示では、デジタル・フォーカス・インジケーターは表示されません。
●マニュアル露出“M”にしたとき、セットした露出に対し適正露出値からのずれ量を最大±2EVまでの範囲で1/2ステップごとに表示します。
表示の例
露出オーバー（2EV以上の場合）：▲▮▮▮▮
露出オーバー（1EVの場合）：▲▮▮
適正：▲▼
露出アンダー（1.5EVの場合）：▮▮▮▼
露出アンダー（2EV以上の場合）：▮▮▮▮▼

※2：この機能にセットすると、ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”にセットするだけで、多重露出撮影ができるようになります。状況に応じて必要な回数だけ多重露出が行えます。表示パネルに“▣”が点滅表示されます。
ドライブモード切り替えダイヤルを、“▣”から他のモードに変えると、フィルムが送られ、多重露出が終了します。
●この機能を選択しているときは、多重露出撮影が終了したら、必ずダイヤルを“▣”から戻すことを忘れないでください。

カスタム機能のセットのしかた

1 露出モード切り替えレバーを、“CF”にセットします。

・表示パネルに“CF”が表示され、カスタム機能セット状態になります。

2 “ダウンボタン”を押して、セットする機能の番号を選び、表示させせます。

・“ダウンボタン”を押すごとに、機能の番号が
1-→2-→……→9-→CLE→1-（以下繰返し）
と変わります。

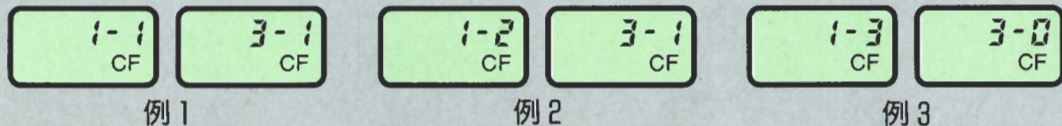
3 “アップボタン”を押して、内容の番号を選択します。

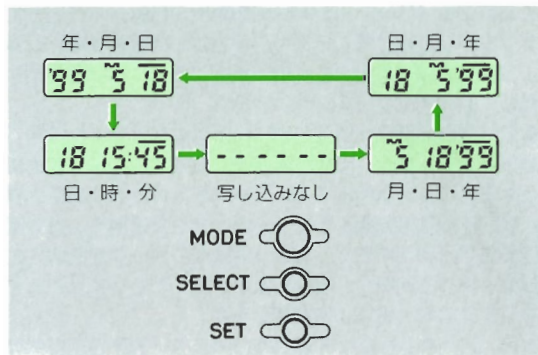
・“アップボタン”を押すごとに、数字が変わりますので、セットする番号にしてください。

4 露出モード切り替えレバーを撮影モードの位置（“CF”以外）に戻します。

・表示パネルが、通常の表示に戻り“CF”は消えます。

●セットした機能をすべて解除するときは、上記2、で“CLE”を表示させた後、露出モード切り替えレバーを撮影モードの位置（“CF”以外）に戻してください。

例1　　例2　　例3

“○”(グリーンポジション)の、ファインダー内表示とドライブモードの変更は単独に切り替えできるため、次のような便利な使いかたができます。
例1：CF 1－1 と CF 3－1 にセットしたとき……
フォーカススケール表示で、“S”、“C”の切り替えを行いたいときにセットします。“○”(グリーンポジション)にすると深度スケール表示に切り替わります。
例2：CF 1－2 と CF 3－1 にセットしたとき……
ドライブモード切り替えダイヤルを“S”にして、絞り／シャッタースピードを重点的に確認しながら撮影中、“○”(グリーンポジション)にセットするとデジタル・フォーカス・インジケーターが深度スケール表示になり、深度を確認することができます。
例3：CF 1－3 と CF 3－0 にセットしたとき……
ファインダー内表示を消し作画に専念しているとき、露出およびデジタル・フォーカス・インジケーターを確認したいときは“○”(グリーンポジション)にすると簡単にフォーカススケールと露出値を確認することができます。

その他

裏ぶたに内蔵されたオートデート機構（データバック）により、撮影の記録としてフィルムのコマ間隔部分に日付けや時刻を自動的に写し込むことができます。

①モードボタンを押すごとに年・月・日→日・時・分→・・・・・（写し込みなし）→月・日・年→日・月・年の順に表示が変わりますので、写し込みたい表示に合わせます。

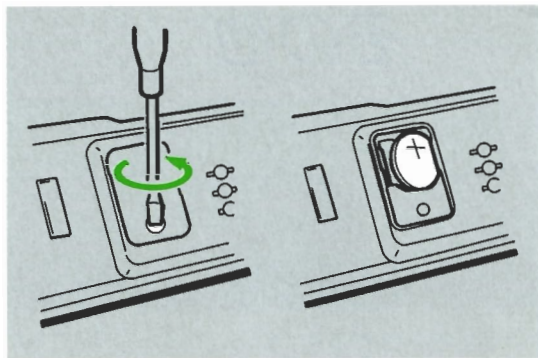
②シャッターボタンを押して撮影すると、表示文字右上の"ー"マークが点滅して、表示が写し込まれたことを示します。

●日付け・時刻は撮影画面内には写し込まれません。

●日付け表示の上に出る"M"表示は、月（Month）を示すマークで、写し込みはされません。

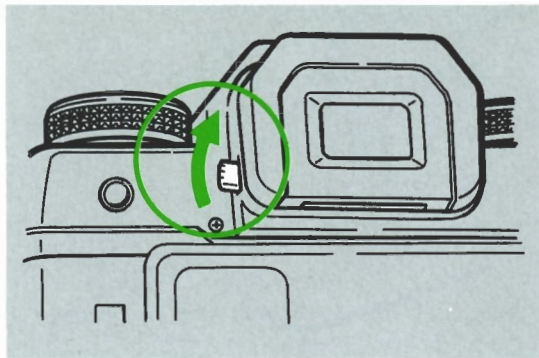
◉連続撮影（C）で、フィルム感度がISO64以下のときにデータバックを“写し込み”の状態にして撮影すると、巻上げ速度が遅くなります。速くしたいときには“写し込みなし”（-- -- --）にしてください。
◉フィルムの画面と画面の間に、日付けなどデータの写し込みを行った場合、現像処理作業の段階でホルダー収納のためフィルムを裁断する際、データ写し込み部が切断されたり、また極端に露出アンダーのときや夜景撮影などで画面の境界が判別できない場合、画面間のデータを画面内の画像と誤って判断し、撮影画面が切断されてしまうことがありますので、何卒ご容赦願います。
なお、このようなことを避けるためには、現像処理を依頼するとき、フィルムを切断しないよう長巻きの指示をしてください。

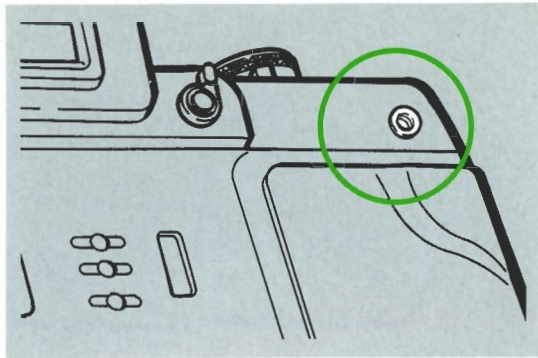
〈日付け・時刻の修正〉

①デートモードボタンを押して修正する表示を出します。
②デートセレクトボタンを押して修正する数字を点滅させます。
③デートセットボタンを押して正しい数字になおします。(時刻合わせで：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時刻合わせができます。)
④修正が終わったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押してください。

〈データバック用電池の交換〉

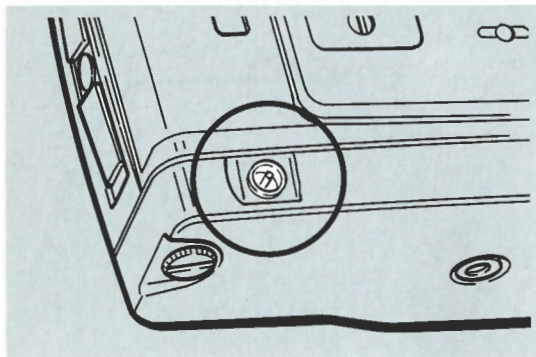
データバック用電池は、長寿命のリチウム電池（CR2025）を採用しているため約3～4年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みがうすくなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。このときは図のようにして電池を交換してください。
◉デート用電池を交換したときは、必ず日付けと時刻を合わせなおしてください。

デート用電池（CR2025）は、特に幼児の手の届かないところに保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

アイピースシャッター

セルフタイマーやケーブルスイッチLを利用してのオート撮影（Av、Tv、Pの各モード）では、ファインダー接眼部から目を離しますので、接眼部から入る光が測光に影響をおよぼすことがあります。このような撮影では、アイピースシャッターを利用して接眼部をしゃ閉してください。アイピースシャッターレバーを上にするとしゃ閉されます。

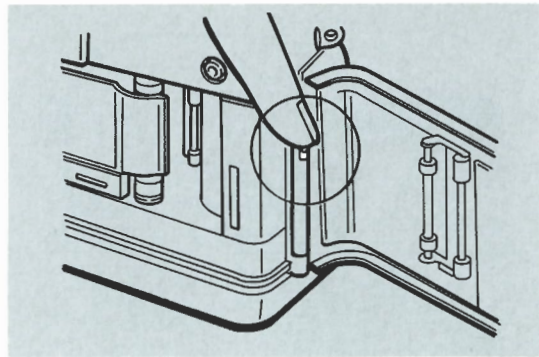
ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチLやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

●ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取り付けないでください。故障の原因になります。

外部電源ソケット

別売りの外部電源（パワーパックP－8）を取り付けるためのソケットです。
パワーパックP－8の電源プラグをここに差し込んで使用します。

● P－8をご使用のときは、必ず「別売アクセサリー”パワーパックP－8”」の項（P82）をご覧ください。

● パワーパックP－8以外は使用しないでください。故障の原因になります。

裏ぶたの取りはずし

カメラの裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取外すことができます。

シャッタースピードと絞り値の表示について

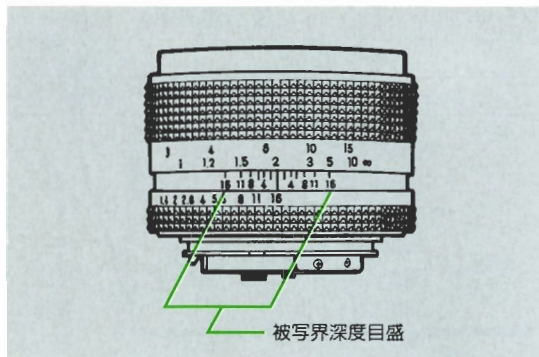
シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

◎シャッタースピードの表示は“4000”（1/4000秒）から“16"”(16秒)まで表示されます。カメラの露出モードが“Av”、“P”のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、“Tv”、“M”のときはセットした値を表示します。
“X”にセットしたときはシャッタースピードは“125”が表示されます。
“B”にセットしたときはシャッタースピードは“bulb”と表示されます。

◎絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示値で示されます。たとえば絞り値がF3.3のときは“3.5”と表示されます。

〈シャッタースピード、絞り値表示〉

シャッタースピード			絞り値	
AvまたはP		TvまたはM	全モード	
4000	2800	4000	32	27
2000	1400	2000	22	19
1000	700	1000	16	13
500	350	500	11	9.5
250	180	250	8.0	6.5
125	90	125	5.6	4.5
60	45	60	4.0	3.5
30	20	30	2.8	2.4
15	10	15	2.0	1.7
8	6	8	1.4	1.2
4	3	4		
2	0"7	2		
1"	1"4	1"		
2"	2"8	2"		
4"	5"6	4"		
8"	11"			
16"				

・表示の中間で制御されるときは近い表示値で示します。

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く、開放にするほど浅くなります。

②被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。

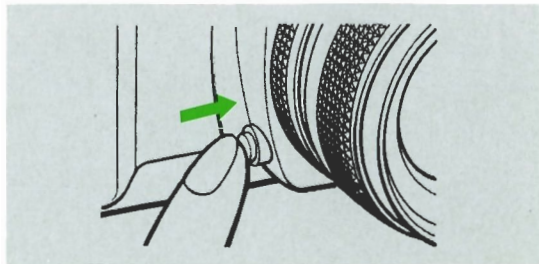
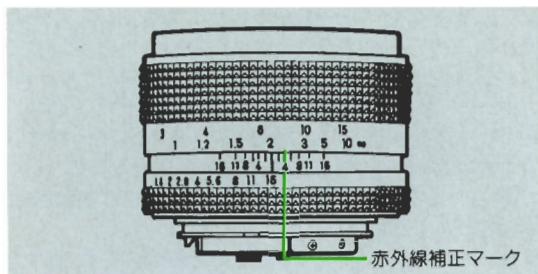
③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。例えば50mmF1.4標準レンズで2mの距離にピントを合わせ、絞りをF16にセットした場合は、被写界深度目盛16に対応する距離、すなわち約1.4mから約5mまでピントが合うことになります。

〈絞り込みボタン〉

ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ（ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります）、その状態の被写界深度や背景のぼけ具合を見ることができます。

- 絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。
- 露出モードが“Tv”、“P”のとき絞り込み作動はできません。

赤外線フィルム撮影について

①露出について

このカメラの露出計は、赤外線フィルムについては測定できません。

フィルムの説明書に従って露出値を決定してください。

②赤外線補正マーク

赤外線フィルム（赤フィルター使用）を使用して赤外線撮影する場合は、一般撮影のときとピントが少しずれますのでそのずれ量だけ補正が必要になります。レンズにはそのための赤外線補正マークが表示されています。まず、フィルターなしでピント合わせしたあと、フィルターを取付け、そのときの距離目盛りを補正マークの位置までずらして撮影します。

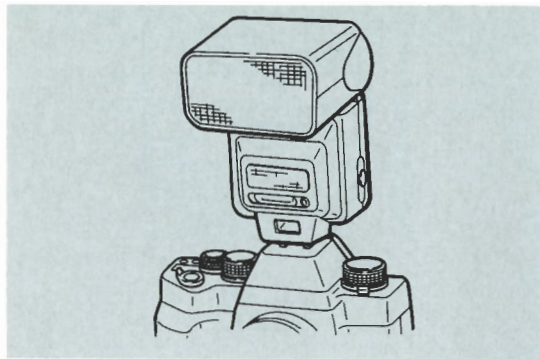
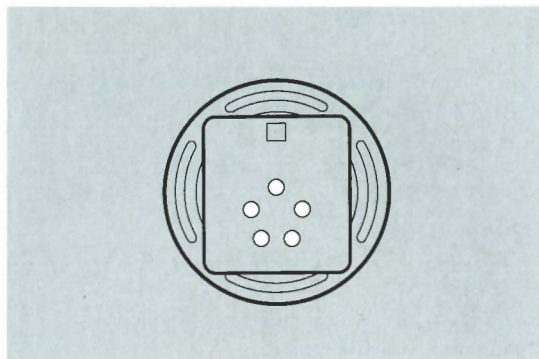
●カラー赤外フィルムを使用するときは、フィルムの説明書に従って撮影してください。

カメラ使用上の注意

●レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
●本体の汚れを落とすときは、柔らかい布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤の使用は絶対に使用しないでください。
●海岸・山岳やほこりの多い所などでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は腐食の原因となり、砂ぼこりなどは内部の精密な機構に悪影響を及ぼします。
●暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
●寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズやファインダーがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、内部に水滴が生じると腐食の原因にもなりますので、できるだけ急激な温度変化は避けてください。
●**海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、テスト撮影をしてから使用してください。また予備の電池を携行することをおすすめします。**
●カメラは精密機器ですので、落としたり、大きなショックを与えたりしないでください。

シャッター幕について
シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

マイクロコンピューターの保護回路について
このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉
●カメラは、湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しの良い所に保管してください。
●長期間カメラを使わないときは、電池を取り出しておきましょう。液漏れによる損傷を防ぎます。

ガイドナンバー36（ISO100・35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。
ストロボオートセット機能を備えていますので、コンタックスRXと組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて以下の四つの機能をもった使いやすいストロボです。

・これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合にお使いいただけます。
TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用する時は、ストロボには自動セットされません。
・ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボの取り付け脚の接点が5箇所になっています。

1 オートセット機能

機能 / ストロボ撮影モード	フィルム感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

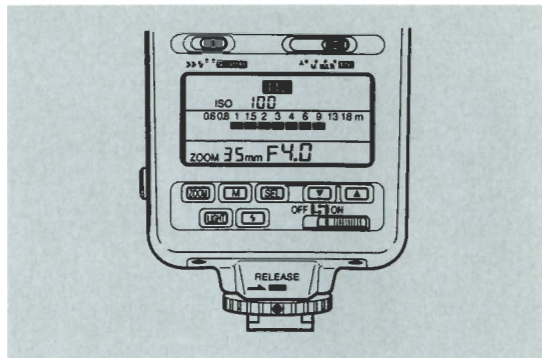
○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）

×：ストロボには自動セットされません。

2 ストロボの光量の補正

"TTLオートストロボ撮影" モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

・補正は、−3EV〜＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。

・ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を "＋1"、ストロボ側の補正を "＋1" とすると、ストロボの発光量は、＋2（EV）になります。

①ストロボの "SEL" ボタンを押します。

・ストロボの表示パネルに補正目盛りが表示され、"＋/−" マークが点滅します。

②ストロボの "▲" "▼" アップ/ダウンボタンを押して補正目盛りを希望する値にします。

③再度、"SEL" ボタンを押します。

"＋/−" マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

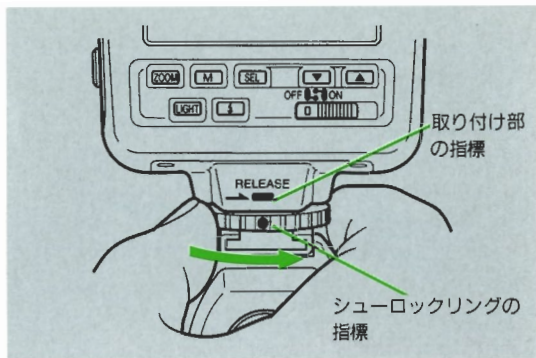
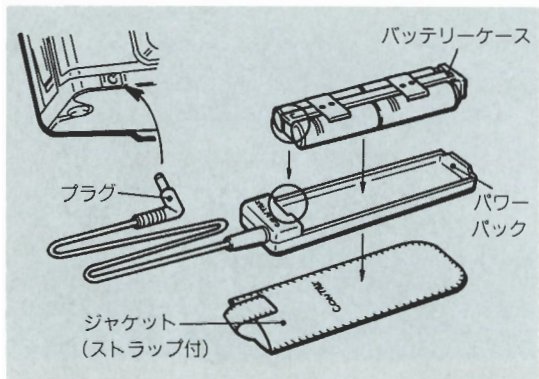
・ストロボ表示パネルの補正目盛りは、ストロボ側の補正量を表示します。

・ストロボ側の補正量が "0"（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛りは消灯します。

3 “オートOFF”、“オートON” 機能

ストロボの電源スイッチを“オートOFF”にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的にOFFになります。またカメラのシャッターボタンを半押しすることで “オートON” になり、ストロボの充電が開始されます。
長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

4 シューストッパー

TLA360の “取り付け脚” には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー(抜け防止機構)がついています。
カメラへの取り付け、取り外しの際は必ず “取り付け脚” の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。

1.5V単3形電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の性能低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

◎使いかた

①バッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れ、パワーパック本体に取り付けます。

・パワーパック本体の切り欠きとバッテリーケースが一致する向きでケースを取り付けてください。向きが違うと取り付けられません。

②パワーパックをジャケットに入れます。

③パワーパックのコード先端のプラグを、カメラ本体の外部電源ソケットに差し込みます。電源の供給は、カメラ本体の電池からパワーパックP－8の電池に切り替わります。

●撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。

●電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。

●パワーパックを長期間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。

●接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

構成：パワーパック本体、バッテリーケース、
　　　ジャケット（ストラップ付き）

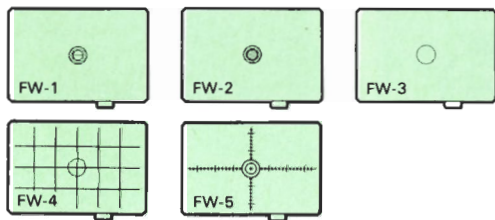
コードの長さ：1.5m

使用バッテリーと撮影本数

（24枚撮り、新品電池使用、当社撮影基準による）

バッテリー種類	常温
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約100本
1.2V単3形ニッカド電池4本	＊約100本

＊ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

〈フォーカシングスクリーンFWタイプ〉

RX用のフォーカシングスクリーンは、FW－1～5の5種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。

フォーカシングスクリーンにはスポット測光範囲を示す中央部のφ5mmの円(FW-1、FW-2はマイクロプリズム部外側）が示してあります。

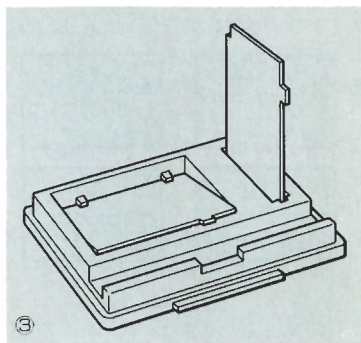
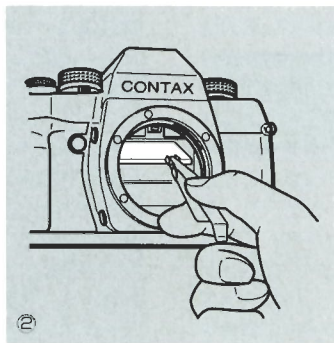
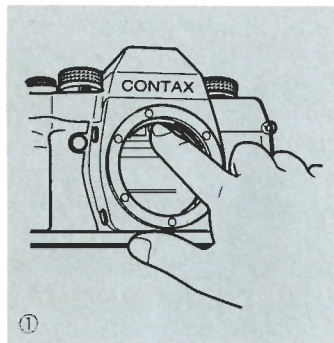
●フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。

FW－1（水平スプリット／マイクロプリズム式）……標準装備品。一般撮影に適しています。中央のスプリット部、その外周のマイクロプリズム部、周辺のマット部の3つの部分でピントを合わせることができます。

FW－2（コンビネーションマイクロ式）……一般撮影に適しています。中央部と外周部に角度の異なるマイクロプリズムを組み合わせたスクリーンです。中央部は明るいレンズを使用したときに精度よくピント合わせができます。外周部のマイクロプリズムは暗いレンズを使ったときでもかげりにくい為、効率よくピントを合わせることができます。

FW－3（全面マット式）……全面をマット状にしたスクリーンです。長焦点レンズなど、比較的暗いレンズを使用するときや、接写などでマイクロプリズム部あるいはスプリット部ではピントが合わせにくい場合に適しています。

FW－4（方眼マット式）……全面マット式に6mm間隔の方眼を入れたスクリーンです。特にオートベローズやPCディスタゴンを使用してのアオリ撮影、あるいは複写など厳密に構図を決定するときに適しています。

FW－5（クロススケール式）……顕微鏡撮影や高倍率接写の時に使用するスクリーンです。中央が明るい透過式になっており、眼をわずかに左右に振っても十字線に対して像がずれないようにピントを調整します。また周辺のマット面でもピント合わせが可能です。目盛り線（1mm間隔）を利用して撮影倍率や像の大きさを知ることができます。

〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

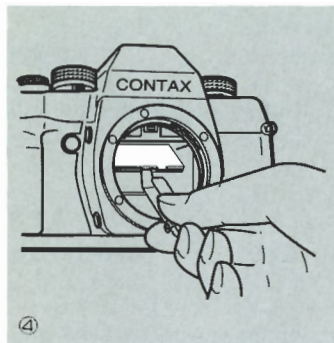
※各スクリーンには、交換用のピンセットが付属しています。必ず付属のピンセットをご使用ください。

● スクリーンの交換は、フォーカシングスクリーンFWタイプ取扱説明書に記載の方法と異なります。次のようにして交換してください。

1、スクリーンの取りはずし

まず、レンズを取りはずしてからカメラのスクリーン交換つめを指の先などで軽く押します。①

スクリーンが枠ごと下がりますから、静かにおろしてください。スクリーンの突起部をスクリーンに付属のピンセットではさんで取り出します。②

取り出したスクリーンは、ケースの溝に立てておくと汚れや傷をつける心配がありません。③

2、スクリーンの取り付け

取り付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ下がっている枠内に入れます。次に枠の突起部（交換つめ）をピンセットでカチッと止まるところまで静かに押し上げてください。④

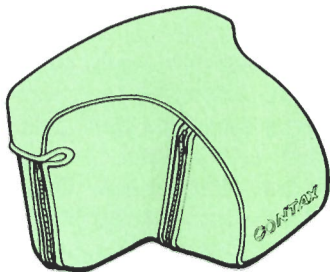
最後に指で軽く押し、確実に入っているか確認してください。

これで取り付けは終了です。

●フォーカシングスクリーンの交換は必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、およびスクリーンに傷や指紋をつけないように注意してください。

●スクリーンにごみがついたときは、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。

●取り付けかたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。このときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。

●使わないスクリーンは、スクリーンケース内の図解に従って収納しておいてください。

ケース先端を伸縮させることにより、RXにカールツアイスT＊レンズの焦点距離135mm以下の単焦点レンズ、およびバリオゾナー40〜80mm、35〜70mm、28〜85mmのズームレンズを装着したまま収納できます。

●C-4は、上下に少し余裕ができますが、CONTAX ST、167MTにも使用できます。

主な仕様

型式	：35mmフォーカルプレン式AE一眼レフカメラ
画面サイズ	：24×36mm
レンズマウント	：コンタックス/ヤシカMMマウント
シャッター型式	：縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	：Av、P……16秒～1/4000秒 Tv設定……4秒～1/4000秒 マニュアル…B、X（1/125秒）、4秒～1/4000秒
シンクロ接点	：X接点（1/125秒以下で同調）ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付
セルフタイマー	：電子式、作動時間10秒
シャッターレリーズ	：電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
露出制御	：①絞り優先オート　②シャッター優先オート　③プログラムオート　④マニュアル露出　⑤TTLオートストロボ　⑥マニュアルストロボ
測光方式	：TTL中央重点平均／スポット測光切り替え式
測光連動範囲（ISO100、F1.4）	：中央重点平均測光…EV1～20 スポット測光………EV5～20
フィルム感度連動範囲	：DXコードによる自動設定時……………ISO25～5000 マニュアル設定時……………ISO 6～6400
AEロック	：像面光量記憶方式
露出補正	：＋2EV～－2EV（1/3ステップで設定可能）
A・B・C機構	：A・B・Cレバーの設定による露出補正幅　±0.5EV/±1EV
ストロボ調光連動方式	：TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調	：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
ストロボオートセット機能	：ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能
後幕シンクロ	：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
フォーカスインジケーター	：TTL位相差検出方式 測距検出範囲(ISO100)：EV 2～20 ファインダー内デジタル・フォーカス・インジケーターにより表示
ファインダー	：ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式） ・視野率……95%

・倍率………0.8倍
（50mm標準レンズ無限遠、
視度－1Dのとき）

視度補正：視度補正機構内蔵、
補正範囲　＋1D～－3D

フォーカシングスクリーン：水平スプリット／マイクロプリズム式（FW-1）を標準装備
スクリーン交換可能（FWタイプ）

ファインダー内表示：デジタルフォーカスインジケーター、シャッタースピード、絞り値、露出マーク、A・B・C表示、露出補正表示、測光マーク、フィルムカウンター、ストロボマーク

表示パネル：フィルムカウンター/フィルム感度/セルフタイマー残り時間/バルブ経過時間、多重露出表示、カスタム機能表示、バッテリー警告マーク

フィルム装填：オートローディング式
フィルムカウンター"01"までの空送り機構付き

フィルム巻上げ：内蔵モーターによる自動巻上げ

フィルム巻戻し：内蔵モーターによる自動巻戻し
巻戻し終了後は自動停止、途中巻戻し可能

ドライブモード：1コマ、連続、セルフタイマー、多重露出

巻上げ速度：連続撮影（"C"モード）で最高3コマ／秒
（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

フィルムカウンター：表示パネル、ファインダー内とも自動復元順算式

アクセサリーシュー：ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

カスタム機能：●ファインダー内表示の選択（測距重視表示／測光重視表示／表示なし）、●グリーンポジションのモード設定、●AEロックの方法選択（シャッターボタン半押しまたは露出チェックボタンでAEロックする）、●多重露出方式の選択（ノーマル／連続）、●A・B・C撮影順序の選択（スタンダート→オーバー→アンダー／オーバー→スタンダート→アンダー）、●絞り込みボタンの作動（押している時のみ絞り込み／プッシュON・プッシュOFF方式）、●フィルム巻戻し時のフィ

	ルム残りの選択（フィルムをすべて巻き込む／先端をパトローネの外に残す)、◉フィルム巻戻し方式の選択（フィルム終了時巻戻しレバーを操作すると巻戻す／フィルム終了時自動巻戻し)
裏ぶた	：裏ぶた開放レバーによる開放式、着脱可能 データバック・フィルム確認窓付
データバック	：クオーツ時計内蔵（オートカレンダー) フィルムコマ間記録式 写し込み内容……年月日、日時分、写し込みなし、月日年、日月年
電源	：6Vリチウム電池(2CR5) 1個使用 裏ぶたにデータバック用リチウム電池(CR2025) 1個使用
バッテリーチェック	：自動チェック式　表示パネルに表示
フィルム撮影本数	：24枚撮りフィルム約150本 （新品リチウム電池2CR5使用、常温、当社撮影基準による)
その他	：絞り込みボタン、外部電源ソケット付き
寸法	：151(幅)×104.5(高さ)×59(奥行き)mm
重量	：810g(電池別)

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、**交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。**コンタックス用として市販されている他社製品を使用して生じた事故や故障については、当社では責任を負いかねる場合があります。

各部の名称

ファインダー接眼部
アイピースシャッターレバー
アイカップ
露出モードロック解除ボタン
巻戻しレバー／巻戻しロック解除ボタン
シンクロターミナル
ケーブルスイッチソケット
フィルム確認窓
デートモード切り替えボタン
裏ぶた開放レバー
デート表示窓
裏ぶたロック解除ボタン
デートセレクトボタン
デートセットボタン
外部電源ソケット
バッテリー室カバー固定ねじ
バッテリー室／バッテリー室カバー
デート用電池ぶた
三脚ねじ穴